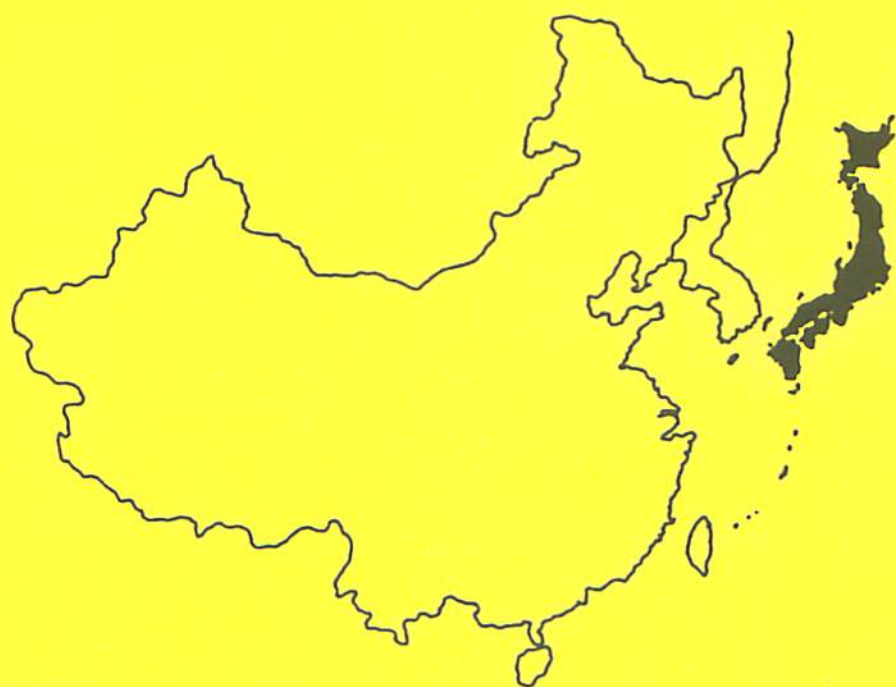


日本ビジネス中国語学会

会 報

第15号



目 次

日本ビジネス中国語学会会報 15 号

第 15 回総会報告・議事録（要旨）	2
第 17 回公開講演会・シンポジウム	
中国語学習と実用の経験	片寄 浩紀 3
OA 機材によるビジネス中国語教授法の実践	藤本 恒 9
（日中学院報 9、18 記念講演会より）	
中国と向き合い 40 年 1964～2004	片寄 浩紀 15
第 18 回公開講演会・シンポジウム	
中国語通訳 — 現場からの報告	永富 健史 20
OA 機材によるビジネス中国語教授法の実践	藤本 恒 前掲
第 19 回公開講演会・シンポジウム	
ビジネスに欠かせない時事中国語について	待場 裕子 30
ビジネス現場の中国語テキスト	北原 恵 39
元駐在員の中国雑感	野中 靖介 45
設立趣意書	46
日本ビジネス中国語学会会則	47
役員名簿	48
入会のご案内	49

第15回総会開催

公開講演会・会員シンポジウム（第19回）を同時開催

日本ビジネス中国語学会の第15回総会が、6月25日（土）午後2時より、大阪市北区の大阪中国語学院において開催され、熱心に審議を行ないました。

総会成立を確認後、藤本恒会長が議長をつとめ、2004年度の活動報告、収支報告と今年度の予算案、活動案などの審議を行ない、それぞれ承認されました。



1. ビジネス中国語検定試験の受験者拡大を図る。
2. 引き続きホームページの内容の充実化、迅速化を図っていく。
3. 東京、九州での公開講演会・シンポジウムは好評だったので、今年度も実施できるように努力する。
4. 会員拡大と理事の増強をはかる。
5. 会員有志による研究会を大阪で行なっているが、相互学習の場としても有意義なので、誰でも参加できる会として継続して行きたい。

等の意見が出され、審議を経て承認されました。

総会の後、公開講演会・シンポジウムが開かれ、待場裕子先生が「ビジネスに欠かせない時事中国語について」……日本発の中国語ニュースと中国発の日本関連報道……の演題で、北原恵先生は「ビジネス現場の中国語テキスト」……編集・作成についての所感……の演題でそれぞれお話いただきました。（講演要旨は本号に掲載）

終了後の懇親会には学生、若い人の参加もあり、にぎやかな催しになりました。

日本ビジネス中国語学会第15回定期総会議事録（要旨）

2005年6月25日（土）大阪中国語学院

1. 14:00 議長選出 会則にもとづき藤本恒会長が議長をつとめる。
2. 総会成立 現在有効会員59名の内、出席者10名、委任状31名、合計41名。
過半数で成立を確認。
3. 報 告 活動報告（榎原茂樹）：資料にもとづき報告 承認
収支報告（岩下孝彦）：別紙の通り収支状況を報告 承認
監査報告（待場裕子）：正確に記帳されている事を認める 承認
4. 活動案提出 榎原理事長より資料にもとづき提案。 承認
5. 予算案提出 榎原理事長より資料にもとづき提案。 承認

14:30 閉会

* 総会成立会員数59名は2004年度会費納入者の数で、会員名簿数とは差があります。

平成17年2月13日
学士会館にて

中国語学習と実用の経験

日本国際貿易促進協会
専務理事 片寄浩紀

(1) 中国語との出会いと基礎段階 [自分の単独学習]

- (あ) 大学教育 「青」とは何か（字と音声）？
香港のラジオドラマ録音テープ「駱駝祥子」
- (い) 民間学校 教科書は「小学語文」
謝冰心「下駄」の自己朗読、帰国者との交流
- (う) 自己学習 聞く「北京放送の録音」（口真似）
読む「青春之歌」（辞書、音読）

(2) 仕事で使う段階 [組織の中での実践]

- (あ) 逐語通訳 上司・同僚の手助け
話す力と聞く力が交互に向上
- (い) 文書作成 前例や関連文書の蓄積の利用、上司・同僚の手助け
- (う) 中国事情 言葉以外に中国の現状に対する理解が必要
- (え) 自己学習 読む「古典」、月刊雑誌「紅旗」（辞書、音読）

(3) レベル向上の段階

- (あ) 国家指導者の通訳 正確さ、スピード、明瞭さ、品格、
援助無し、第2の母国語的感覚
- (い) 新語の掌握 必要な中国語版「現代用語の基礎知識」
微妙な変化「待業」、「国庫券」、「国有企業」
- (う) 自己学習 「経済日報」、評判の書「中国農民調査」

英語学習の必要性

中国語学習と実用の経験

2005年2月13日

日本国際貿易促進協会

専務理事 片寄浩紀

本日、日本ビジネス中国語学会のセミナーでお話する機会を与えられたことを大変感謝しています。

最初に自己紹介します。私は1946年、敗戦の翌年に神話の国島根県の出雲市で生まれました。自分の年齢に+1で戦後の年数となります。ちなみに今年は敗戦60周年ですね。

1964年、東京オリンピックの年に東京に出てきて、大学の第二外国語として中国語を選択しました。これが中国語との出会いです。選択必須科目の第二外国語として、ローマ字以外のものをというまったく受動的な選択でした。しかし、その二外の中国語の工藤先生の授業が中国語と中国への興味を掻き立てました。先生の勧めもあり、同年10月から倉石中国語講習会（現在の日中学院）の夜間部にも通い始めました。



さて、卒業年度に至り、就職を決めなければなりません。学部は法学部でしたが、もうそのころには中国と直接触れ合う仕事に就きたいと思うようになっていました。学校に残り教師になる道もありましたが、学資がありませんでしたし、学校で働くにしても、中国関係の仕事で経験を積んでからにしたいと考えました。当時、国交はありませんでしたが、商社を通じた貿易が中国との間で進められていました。関係する貿易団体として日本国際貿易促進協会がありました。自分の性格から商社の仕事は向かないと考え、この協会に就職しました。就職試験の語学テストでは毛沢東語録を音読させられました。「青年」という章の一節で「shijie shi nimende, yeshi womende, danshi guigenjiedi shi nimende.」のところだったと覚えています。

1968年に日本国際貿易促進協会に入り、日中貿易業界に身を置き、現在に至っております。この間、広州交易会への参加協力、訪中国の派遣、訪日団の受け入れ、中国での展覧会の開催、北京駐在等の実務に従事してきました。

その過程で、中国語の学習と実用上で経験したことを基礎段階、仕事で使う段階、レベル向上の段階の3つに分けてお話します。皆様にとって少しでも参考になるならば幸いです。

中国語との出会いと基礎段階

共同学習の方法もあるとは思いますが、基本的には自分の単独学習となります。

[大学の授業]

さて、大学での授業の教科書はいきなり現代中国文学の代表的な作品で、先生の好みから老舍の短編小説「全家福」が使われました。教授法は90分に1行しか進まないという驚くべきものでした。例えば、「青」とは何か？BLUEと同じか？東洋人の目は黒いのに、「眼目+青」というのはなぜか？「青衣」とか「青瓦」の色は黒である。しかし「青=黒」ではないはずだ。「青」を含む漢字の音声はQINGかJINGであるが、どんな感じがするか？という調子でした。皆さんはどうおもわれますか。私は「青」とは濁りがなく、どこまでも澄み切った、透き通った、純粋な感じを表すように思います。そういう気持ちで「請座」「請進」といつてみてください。ただ話せればよい、通じればよいといった実用主義とはかけ離れたものであったが、軽視できない視点でありました。

夏休みの合宿では香港のラジオドラマ録音テープ「駱駝祥子」を聞き、理解するという時間もありました。虎姑娘の愛の告白「WO TENG NI YA!」という台詞は強烈な印象でした。

[民間学校]

倉石中国語講習会での授業は大学とまったく対照的でした。教科書は「小学語文」という中国の小学校の国語教科書で、発音や基礎文法をしっかりおそわりました。現代中国の知識人の生の言葉（といっても録音ですが）を聴いたのも講習会のおかげでした。有名な作家である謝冰心女史が作家代表団に加わって来日した際、講習会を訪れ、講演の代わりに「下駄」という自己の作品を朗読したテープがありました。謝女史は中華民国駐日大使館幹部職員の夫人として敗戦直後の日本に滞在したことがありました。この作品は、その時に見た貧しい中にも明るく生きていく日本の庶民の姿がカラコロという下駄の音に象徴されているという内容。その声は北京放送アナウンサーの調子とはまるで違い、優しさと知性に溢れた魅力あるものでした。発音に故郷の福建なまりが残っているのもかえって親しみを感じました。

その他に課外活動として中国からの帰国子女との交流もあり、公的資料や公式発言では知りえない、実際の中国の一端を知ることができました。彼らとは今でも付き合っています。

[自己学習]

学校の授業を補足する自己学習として、聞くことと読むことをやりました。夏休みのアルバイト料でテープレコーダーを買い、深夜に「北京放送」を録音して、繰り返し聞き、口真似をしました。当時テレコはまだオープンリール式の重い機械で、3万円もしました。学習にも金がかかるものです。

読む方では当事のベストセラー「青春之歌」を辞書引き、音読しながら完読しました。ど

うしても意味の分からないところはアンダーラインを引いておいて倉石講習会の先生に聞きました。

当時の環境から言って、中国語を話す機会はほとんどゼロでしたが、放送の口真似や音読により少しは話す力を養えたと思います。音読の習慣は社会人になってからも続け、電車の中でもやっていたため、乗客から「うるさい」とどなられたことが何度もあります。いずれにしても長編の「青春の歌」を読み終わった時、自分でも学力が一段階向上したような気がしました。

基礎段階で正確な発音の習得がいかに大切かのエピソードを1つ。ある日本企業の北京事務所長がタクシーで自分の自宅のある「長城飯店」に帰ろうとして、片言の中国語で運転手に「changchengfandian」と言うが、どうしても通じないと嘆いていました。

(1) 仕事で使う段階

協会に就職してからは、直ちに中国語を使うことになりました。最初は中国から来た手紙や電報の日本語への翻訳であり、しだいに日本語文書の中国語への翻訳もやりました。国交正常化以後は、来日団の随行と通訳、訪中団の随行者として中国側との打ち合わせや交流の通訳などの仕事が急増し、仕事の中で中国語も鍛えられました。

ただ、仕事は協会であれ会社であれ、組織の中での実践であり、チームでやるものですから、上司・同僚の手助けがあるわけで、学生時代の単独学習とまったく違います。逐語通訳においては詰まったり、誤訳した時は上司・同僚が助け船を出してくれますし、文書の翻訳では前例や蓄積された関連文書を利用できますし、上司・同僚の点検を受けた後に発出します。

とは言っても仕事上の失敗は実害が出ます。私も技術交流のテーマを誤訳したために別の分野の専門家を北京に派遣して、日中双方の信頼を失ったことがあります。翻訳・通訳の業務には緊張感に持続と誤魔化さない誠実さが要求されます。

この段階では辞書にある一般用語以外に各種の専門用語を使う必要が出てきます。専門の辞書を買って整えることや、実践で収録した言葉の単語帳を作ることをしてきました。

1980年代に入り、中国では「中外合弁企業法」を皮切りに法律が続々と制定され、それらを正確な日本語に写し換えるための法令用語の単語帳を作ったのはその一例です。

この段階で重要なもう一つのことは中国事情を勉強するということです。「言葉ができるのであれば、言葉以外に中国の現状もよく知っている」と思われ、いろいろ人からきかれます。ですから中国に関する各種の書籍や雑誌を読む必要が出てきます。

自己学習では現代文学に加えて「三国志演義」、「西遊記」、「紅樓夢」といった明清時代の小説に進みました。また、「人民日報」などの日刊新聞を読む時間はとれないので、月刊雑誌「紅旗」を自分で購読しました。1975年のある月の「紅旗」の巻頭論文が「環境保護問題」であったことに注目しました。これが契機になって1976年北京での「日本環境保護機器展覧会」の開催という事業に結びつきました。

この段階で感じたことは、話す力と聞く力が交互に向上したということです。自分が言うことは通じるが、相手（中国人）の言うことが聞き取れなくて困った。相手の言うことは聞き取れるが、自分の言いたいことがうまく表現できなくてもどかしい。こういった状態が交互にやってきました。

当時、私が最も苦手だったのが山東省出身の老幹部でした。中央政府の各部門には山東出身者がまた多かったのです。広東や上海の人は、広東語や上海語が普通語とは全く違う発音（語彙も違う）であるため、努力して普通語を話そうとします。ところが山東人は山東方言は普通語に近いと思っているため、直そうとせず、山東方言丸出しで話します。私にとっては恐怖の山東人でした。

もっとも現在の山東省の若い幹部は全員がすばらしい普通語を話します。私の恐怖症も過去のものになりました。

(2) レベル向上の段階

実力が認められてくると、次第に重要な通訳をまかせられるようになります。国家指導者や企業のトップの登場する場面での通訳はかなり緊張します。隣に助け船を出す人はいません。正確さ、スピード、明瞭さ、品格の高さが要求されます。話題は広範囲で、どういふ話が出てきても対応しなければなりません。もう第2の母国語的感覚といえましょう。

そしてもう一つ指摘すべきことは中国の発展と国際化の早さです。それは言葉の面にもすぐに反映されます。9. 11 テロ事件にしろ、アンチテロ声明にしろ、即時に中国でも報道されます。中国の経済用語でも、いつのまにか「待業」が「失業」、「国庫券」が「国債」、「国営企業」が「国有企業」に変化しました。

この段階では、専門用語というよりも時事新語の掌握が必要になります。日本では基本的な国語辞典や専門用語辞典と生きている新語との隙間を埋めるものとして「現代用語の基礎知識」などが出版され利用されています。中国語版「現代用語の基礎知識」が必要なことをここ数年特に痛切に感じました。そこで去年「中日英対照 中国最新用語辞典」を出版しました。

まだ収録語数 1800 という小さなものですが、将来は「現代用語の基礎知識」並みに充実させたいとの夢をもっています。多くの皆さんが愛用されることを希望します。

この段階の自己学習として私は「経済日報」に毎日目を通し、評判の書たとえば「中国農民調査」などを読んでいます。

コンピュータやインターネットは手段だと思いますが私は経験不足です。次に講演される藤本先生が紹介してくださると思います。また、中国語が一定のレベルに到達したら、英語学習を心からお勧めします。グローバルビジネスパーソンの誕生です。「中国最新用語辞典」を「中日英対照」としたのもその故です。

以上お話したように、外国語の習得に楽な道はない、「貴在堅持」に尽きると思います。

対象である中国、中国人、中国語に興味を持ち続け、さらに理解を深めようという情熱を持ち続けることが継続学習のエネルギーだと思います。

日本ビジネス中国語学会

第17回 公開講演会・シンポジウム

2005年2月13日 東京会場

第18回 公開講演会・シンポジウム

2005年3月12日 九州会場

ビジネスプレゼン手法を使った中国語授業と教材

藤本 恒



日本ビジネス中国語学会
第17回 公開講演会・シンポジウム

ビジネスプレゼン手法を
使った中国語授業と教材

gōng yù shàn qí shì bì xiān lì qí qì
工欲善其事必先利其器

藤本 恒

2005年2月13日 [東京会場]

OA機材活用によるビジネス
中国語教授法の実践

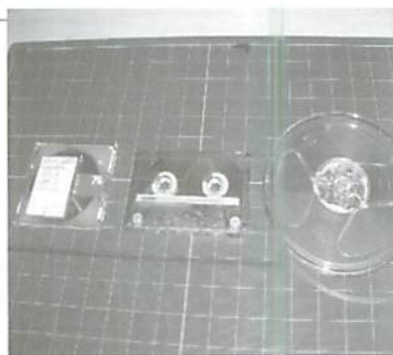
- 何故それ程まで道具にこだわる
- 謄写版に代るコピー機
- 算盤から計算器
- そしてPCが一人ずつに行渡る

OA機材活用によるビジネス
中国語教授法の実践

- 基本データ
- 文字情報はワープロのファイル
- 音声情報はカセットテープやCD
- 画像は写真とビデオ

OA機材活用によるビジネス
中国語教授法の実践

- 音声メディア今昔
- オープンリール
- ↓
- カセット
- ↓
- ミニディスク
- ↓
- 1962年の音声



40年前の録音テープから

- 題目：“我的家庭” 神戸外专 第三届毕业生 藤本 恒
- “我的家庭”这一个标题，乍一听，就令人想到著名的美国的民谣：“Home Sweet Home”，或者一个美丽温暖的小家庭。
- 的确，我不否认我自己的家庭是四季如春，温暖可爱的大好家庭。但是，我要说的却不是什么夸耀自己的家庭如何和气美满，如何团圆泰平等这样的话，而是介绍我所说的家庭是什么，我个人成人的经过是怎样的。

《平安夜》（きよしこの夜）

- 平安夜，圣善夜，昏暗中，光华射，
- 照着圣母也照着圣婴，
- 多少慈祥也多少天真，静享天赐安眠，
- 平安夜，圣善夜，天使唱哈利路亚，
- 哈利路亚！主降生，主降生！
- 平安夜，圣善夜，神子爱，光皎洁，
- 救赎宏恩的黎明来到，
- 圣容发出来荣光普照，耶稣我主降生。
- 阿门！

《有福的确据》（曲：夢みる人）

- 有福的确据，耶稣属我。何等的荣耀，向我显明。
- 为父神后嗣，救赎功成。由圣灵重生，主宝血洗净。
- 这是我信息，是我诗歌。昼夜里赞美我救主耶稣。
- 完全的顺服，快乐无比。天堂的荣耀，显于我心。
- 天使带信息，从天降临。述说主慈爱，报主怜悯。
- 这是我信息，是我诗歌。昼夜里赞美我救主耶稣。
- 完全的献与，万事安宁。荣耀的圣灵，充满我心。
- 时刻仰望主，微醒等候。不住地祈祷，等主再临。
- 这是我信息，是我诗歌。昼夜里赞美我救主耶稣。
- 昼夜里赞美 救主耶稣。

OA機材活用によるビジネス 中国語教授法の実践

- 教材作りや講演
などに使う小道具・機材類
- パソコン
- DVD
- MD
- デジカメ 等



OA機材活用によるビジネス 中国語教授法の実践

- 功欲善其事、
必先利其器
- OMR
- 30問カード
- 四声テスト等



OA機材活用によるビジネス 中国語教授法の実践

- 功欲善其事、
必先利其器
- 工具 その一
- 分野別辞書類



OA機材活用によるビジネス 中国語教授法の実践

- 功欲善其事、
必先利其器
- コピー・ファックス・プリンター・OCR複合機



OA機材活用によるビジネス 中国語教授法の実践

- 功欲善其事、
必先利其器
- パラボラアンテナ



OA機材活用によるビジネス 中国語教授法の実践

- 功欲善其事、
- 必先利其器
- 左CCTV 1
- 右=広西台
- 上=DVD他



OA機材活用によるビジネス 中国語教授法の実践

APSTAR 1A デジタル (3.6m)

01 寧夏	02/14/15 甘肅	03/04/05 重慶	06/07/08/09/11 新疆	12/13 陝西
16 中央台-1聯合	17 中央台-2經濟	18 中央台-7軍農	19 中央台-10科教	20 中央台-11戲曲
21 中央台-12西部	22 中央台-音樂	23/41 浙江	32 山東教育	36 雲南
37/48 貴州	40 廣東	50 中央台-3綜藝	51 中央台-6體育	52 中央台-4電影
53 中央台-8TV劇	54 中央台-9兒童	55 中央台-新聞		

APSTAR 1A アナログ (3.6m)

C01 浙江電視台	C02 中央電視台-1聯合	C03 貴州電視台	C04 中國教育電視台-1
C05 雲南電視台			

ASIASAT 3S アナログ (3.0m)

C01 東風衛星電視台	C02 華新電視		
-------------	----------	--	--

OA機材活用によるビジネス 中国語教授法の実践

ASIASAT 3S デジタル (3m)

065-7 鳳凰	068 星空	069 TV	101-4 陝西	105 安徽	106 江蘇
107-8 廣西	121-2 上海	131 山東	132 CCTV-1	134 吉林	135-6 SPORTS
167 湖北	172 四川	173-4 青海	175 湖南	176 福建	179 TV88台灣
181 奧衛電視	182 新加坡	193-6 河南	199-6 福建	201-4 江西	205 遼寧
206 廣西					

ASIASAT 3SK デジタル (3m)

P001 北京	P002 山西	P003 河北	P004 天津
---------	---------	---------	---------

OA機材活用によるビジネス 中国語教授法の実践

- 中
- 国
- 電
- 視
- 報



OA機材活用によるビジネス 中国語教授法の実践

- 中
- 国
- 電
- 視
- 報



OA機材活用によるビジネス 中国語教授法の実践

- 中
- 国
- 電
- 視
- 報



OA機材活用によるビジネス 中国語教授法の実践

- 功欲善其事、
■ 必先利其器
- ADF付きOCR
専用スキャナー
- パソコン



OA機材活用によるビジネス 中国語教授法の実践

- 功欲善其事、
■ 必先利其器
- パソコン
- 書斎机



OA機材活用によるビジネス 中国語教授法の実践

- OA化の光と影 ⇒
- 危機管理をどうするか
- 語学学習と教育の場での応用
- 知財権保護との絡み合い

OA機材活用によるビジネス 中国語教授法の実践

- “抛砖引玉”^{pào zhuān yǐn yù}を期待して
- ビジネスプレゼンテーション
- 西施の顰(ひそみ)に倣って

OA機材活用によるビジネス 中国語教授法の実践

- 教材の加工活用
- 将来展開への期待
- 反復練習にも飽きない教材作成

DVD焦点訪談DISK No.2

T 1	假冒偽劣牌(偽造・改造)タンクローリー→上有政策、下有对策
T 2	法輪功→妨害電波で遠隔教育システムに被害
T 3	中国のエンゲル係数と消費動向の変化
T 4	家屋の内装 毛坯房→『精装修』と偽物器具設備
T 5	中国の国債発行とその効果は→景気刺激とインフラ整備
T 6	中国の国防白書発表に関して
T 7	農村文化站 (広西壮族自治区) →致富之路
T 8	人民日報の報道役割について、政治・軍事・経済の啓蒙作用
T 9	初高中の乱収費(学費+教材費+実験費&ETC)不納=学校を追放
T10	江湖游医詐騙錢財 (流しのペテン医者暴利貪る 新たな手法)

DVD収録内容DISK#雑②

T1	中文発音練習 (約25分)
T2	天気予報 (約3分) 朝放映 文字入力済み
T3	天気予報 (約4分) 夕放映文字入力済み
T4	中国新型肺炎SARS収束 (約10分)
T5	天気予報 (約2分) 夕放映文字入力済み
T6	天気予報 (約2分) 夕放映文字入力済み)
T7	秦の始皇帝 (約42分) (上)
T8	天気予報 (約4分) 夕放映
T9	天気予報 (約4分) 夕放映
T10	新聞聯播 (約13分) 031124 夜

DVD収録内容DISK#雑⑫

T1	BS1上海のゴミ処理試験(資源ごみの回収)	abt.20分
T2	BS1中国上海 結婚相談所	abt.20分
T3	BS1華人国家シンガポール (都市再開発)	abt.20分
T4	BS1華人国家シンガポール (水資源節約)	abt.20分
T5	BS1上海⇒雲南への医療ボランティア活動	abt.20分
T6	BS1中国情報発信一層の経済発展目論む	abt.10分

日本ビジネス中国語学会

第17回 公開講演会・シンポジウム

[東京会場]

終了

中国と向き合い 40 年 1964～2004

日本国際貿易促進協会

専務理事 片寄 浩紀

■中国と向き合い 40 年

私と中国とは、1964 年から語学の勉強を始めて今年でちょうど 40 年、中国語、中国の人、中国とほとんど切れ目なく付き合ってきました。

私自身は、昭和 21 年の生まれで戦後の年が自分の年足す一で自動的に分かるほどの年です。実際に戦前を見たり聞いたりした方もおられると思いますが、私が生まれたのは戦後ですので戦争や空襲その他も知りませんので、全て学校や社会を通して後追い勉強で認識している程度です。

今から振り返ってみますと日中国交正常化になった 1972 年の共同声明で歴史問題等について、「謝罪」という明確な言葉は使われず「深く反省する」という言葉で文言が書かれたために、その後何度も歴史問題が日中首脳の間で繰り返され現在までに至っているように思います。中国は、私どもが若い時につきあった毛沢東時代と鄧小平以後の今の中国とでは大きく様変わりしました。社会主義の計画経済から社会主義の市場経済システムに、経済を運営するしくみが大きく変わり、もう 25 年経ちました。社会主義市場経済と日本の資本主義市場経済は冠が違いますが、実際市場経済の原則で経済を処理していこうという同じ面が強くなり、経済的に中国と付き合う時でもかつてのような溝というか体制の違いが若干薄くなり、色々なことが一緒にやりやすくなってきたのが現在です。

■1964 年倉石講習会で中国語を学ぶ

私は島根県の出雲の生まれで 1964 年に大学入学のため東京に出てきました。第二外国語で、たまたま私の行った大学に中国語があり、ドイツ語やフランス語は皆ローマ字ですが漢字の外国語もいいんじゃないかという程度のことで選んだのが運のつきでした。大学では工藤先生という大変立派な先生がおり、90 分の授業でテキストの一行しか進まないという超スローペースで、かつての漢文や実用支那語ではなく外国語として中国語を位置付け、文化も含めて深く理解しなさいという姿勢で中国語を教えられました。先生に「私の授業を何時間聞いてもしゃべれんよ、実用とは関係ないよ」と言われ、1964 年 10 月には「中国語を本当に勉強するつもりなら、倉石講習会に倉石先生という方がおられるから、そこに行って実際に使える言葉を勉強しなさい。」という勧めがあり、夜週 3 回火木土のクラスを受講しました。当時の日中学院はこんな立派なホテルや留学生宿舎やオフィスビルなどなく、昔の中国風の青い瓦の善隣会館の一階を使い、長い 5 人掛けくらいの椅子に学生が座るといったふうでした。夜間の倉石講習会では 70 近いご年配の方から高校生まで年代がばらばらで、仕事や学校が終わってから勉強しておられました。1964 年は日中国交正常化の 8 年も前のことです。ですからここで勉強しても社会で使うチャンスはないし中国から誰も来ませんし中国にも行けません。実用の言葉を教える学

校に実用するすべがない言葉を熱心に勉強に来られるのです。私は当時 18、19 でしたけど、大変感動的な夜の集まりでした。言葉の勉強を通じて中国のことをもっと知りたいという尊い人々の気持ちが倉石講習会にはあり大変心を打たれました。40 年のうち最初のこの講習会が大きなインパクトがあったわけです。現在日中学院で勉強されている皆さんも是非そういうところを感じられて社会に出ていただければありがたいと思っています。倉石講習会の「学好中国語、為日中友好起桥梁作用！」これはずっと一貫したスローガンであります。何のために勉強するのか、勉強したらどう活かすのか、活かす道がないのに、このためだということをずっとスローガンとしてやってこられました。単なる授業だけでなく課外活動で演劇をやったり、引揚者の人達と座談会を開いたり、私もその中で引揚者のご家庭と付き合い、生の中国の生活や中国の人々の考え方が分かり、言葉と両方勉強したのが 64 年から 68 年までの段階です。

この頃、中国では 1966 年から文化大革命が始まり年々激しくなっていました。国交回復後では中曽根総理と胡耀邦さんの約束で実施された日中青年 5000 人大交流が皆さんの記憶にあると思いますが、実は文革の頃にも日中青年交流があり、第 1 回の交流には相当規模の日本の青年が中国に行きました。ところが 1 年後、中国では文革が激しくなり 2 回目の交流は、外務省や主催者側などいろいろな所からストップがかかり、日中学院でも代表を出して行くべきかどうか議論がありました。私が考えたのは日中交流は文革が激しくなったり、毛沢東思想の押し売りが強くなったから行くべきではないなど短期的な問題ではないのではないか。仮にイデオロギーのおしつけがあったとしても、日本の青年たちはそんなやわなもんじゃない、もっとしっかりしている。もっと長く粘り強く中国とは付き合うべきではないだろうかと思いました。また中国と付き合うのは、普通の人どうしが行う民間交流が一番大事だということを感じました。

■1968 年自本国際貿易促進協会に就職

大学卒業時に中国と関係ある仕事、しかも民間でやれる仕事を探したいと思いました。しかし全くないわけです。唯一あったのが日中友好貿易です。中国と貿易できる中小商社が 100 から 200 くらいあったのでしょうか。そういう商社をお世話する団体として日本国際貿易促進協会（略称：国際貿促）があり、今年 50 周年になります。1968 年に倉石講習会の先生の紹介で国際貿促に就職することになりました。この時期、中国は文革が 3 年目に入りいよいよ燃え盛っており、中ソ国境紛争が起り、アメリカはベトナム戦争に走り、厳しい国際情勢にありました。日中貿易では、中国へ分割払いで最初のプラントを輸出できたのですが、2 回目に台湾から抗議があり、吉田首相がこれからは認めないという吉田書簡を出されたため、中国との大きなプラントの輸出は 1 回で終わりました。共産圏には精度の高い機械や軍事転用の恐れのある物資は売ってはいけないというココム制度もあり、輸出入はわずか数億ドルでした。

しかし、この中で中国が立派だったのは、毎年春秋の広州交易会をどんなに文革が激しくても 1 回も中断なく行ったことです。交易会は単に貿易商談だけでなく、銀行の決済問題や卓球交流大会等も行われる開かれた対外交流の場でした。

私は 70 年春の交易会で初めて中国に行きました。この訪中は印象が深いものでした。初訪中

だからというだけでなく、中国はこの年の4月25日だったと思うのですが自力で人工衛星を打ち上げ、昼の12時に衛星から「東方紅」という音楽を発信し地上局のラジオで放送しました。また、交易会会期中の5月1日に北京で周恩来首相から対日貿易に対して「周四条件」が発表されました。それは、

1. 韓国と大量に取引している日本企業とは取引しない、
2. 台湾と大量に取引している日本企業とは取引しない、
3. アメリカのベトナム戦争に加担している日本企業とは取引しない、
4. 日本とアメリカの合弁企業とは取引しない、というものです。

中国側は政治と経済は不可分であると主張したわけです。当時の日中貿易は年間取引額の8割が交易会で、残りの2割は交易会参加の日本人の内、数十名「北上組」といわれた人達が、交易会終了後半年間北京のホテルに滞在して引き続き商談したものです。当時は、使い捨ての一次パスポートで大変厳しい中で中国と貿易をやっていましたが、少し変化が出たのは71年に中国が国連に復帰し世界でのステイタスが上がったことです。しかし、まさかその後すぐに国交回復に結びつくとは現場では誰も予想していませんでした。当時中国の日本に対する見方は国どうしの付き合いの他に、階級的観点があり、日本の広範囲な人民と統治階級とは違う、国交はなくても民間貿易は行くと主張しました。

■1972年日中国交正常化《貿易拡大の10年》

1972年2月ニクソン大統領が訪中しアメリカの対中政策が変わり、9月に田中首相が訪中し日中の国交が回復したわけですが、日本の外交政策で重要な変化がある時は必ずアメリカの政策が先行し、それは今も変わっていないと思います。国交回復で今でも続いている問題は、国家賠償放棄と「深く反省する」ということが共同声明に書かれているが、民間賠償は未解決であり、また明確な謝罪文言がないため、今尚歴史認識の問題は繰り返されています。

とはいえ国交回復は大変すばらしいことで今まで橋のない所をボートで渡っていたのに橋が架かったわけで経済交流が急速に発展しました。日中貿易は1972年に11億ドルで年々倍増し、昨年は1300億ドル、今年は1600億ドルになる見込みです。これはやはり政経不可分ということを経済交流が実証していると思います。国交回復後の10年は貿易拡大の10年で、日中間では訪中技術交流、工業技術視察訪日団の受入れや中国での産業別専門展覧会が盛んに行われました。

■1976年時代が大転換した年

1976年は私個人にとっても中国にとっても日中関係にとっても時代が大転換した年でした。1月周恩来首相死去、7月唐山大地震で30万人が死亡し、9月9日に毛沢東主席死去、10月に4人組が打倒され10年の文革が終わり、華国鋒主席が誕生しました。中国はこの時環境保護に取り組み始めました。当時もっと本格的に取り組んでいれば今のような問題にはならなかったのでしょうか、それより生産力向上に力を入れました。国際貿促では環境保護技術設備を中国に紹介するため環境保護展を開催したのですが、展示品を積んだ船が横浜から天津に向け出港したその日に唐山大地震が起き、天津港が使えない事態が発生しました。荷主である我々が停

船を指示したら全ての費用を負担することになる、しかし天津港に着けるわけには行かない。北京も大騒ぎで皆出勤しない、連絡もつかない状態でした。国際貿促では会議で当時の事務局長の宮石さんが、「唐山では大損害を受けているのに停船の費用惜しさに船を走らせるべきではない、国際信義のほうが大事だ。」と主張され停船を決めました。結果的に停船の連絡をする直前に青島に船を着けられることになったのですが、その時の「金銭より信義」という考えは大きな教訓になりました。私は77年初めて中国に駐在したのですが、中国がこれからどうなるのか誰も分からない時代でした。

■1978年大転換が本物になった年、《ODAの10年》

1978年12月中国共産党第11期3中全会で正式に「対外的に開放、対内的に改革を行う」という方針が決まりました。日中間では平和友好条約が締結され、宝山製鉄所の建設が合意されました。この年靖国神社へA級戦犯の合祀がなされたそうです。79年アメリカは日本と違い何度も粘り強い交渉を進め、ニクソン訪中から8年目に正式に米中国交が樹立しました。またこの年中国で合弁法が公布され、日中間では第一次円借款が決まりこの20数年間で2.6兆円の円借款が供与されています。80年には中国は広東省に4つの経済特区を決めました。ところが日本の経済界は中国は計画経済体制であり、合弁法が合弁会社の寿命を20年としていること等から対中投資に躊躇し、本格的に投資するのにはその後10年かかりました。中国での展覧会も1983年の第1回のMCONE（計測器展）を契機に多国が参加する産業別国際展に衣替えし、その後盛んになりました。80年代はODAの10年と言えます。また中国のマスコミから「階級」という言葉がなくなったのも80年代です。

■1990年代《投資拡大の10年》

1989年6月4日天安門事件が起き江沢民総書記が誕生、90年ドイツ統一、91年にはソ連が崩壊し東西冷戦が終結、東欧は中国から10年ほど遅れてこの年から市場経済化が始まりました。92年は鄧小平氏が深圳・上海を視察し南巡講話を発表、同年天皇訪中、韓中国交正常化とやはり大きな転換の年でした。90年代には日本企業の対中投資が急速に拡大しました。投資拡大の10年と特長付けることができます。

私は90年代初め国際貿促で新聞や書籍の編集に携わっていた時、中国経済日報東京支局の姜波さんご夫妻と親しくしておりました。国交回復後中国の変わった点は訪日団が個人の家に行くようになったことです。私は姜波さんご夫妻を正月に自宅に招いたのですが、食事が終わったら奥さんが台所で洗い物をしようとしてくれたのです。またご夫妻に何度も誘われお宅へ訪問した時には、奥さんが料理の食材をわざわざ中華街まで買いにいったもてなしてくれました。このことがありこれまであまり中国人が好きではなかった家内の見方が変わりました。

96～98年に2度目の北京駐在時、97年2月に鄧小平氏が死去しました。この時、中国人女性から面白い話を聞きました。鄧小平が亡くなった翌日職場で追悼集会があり、彼女は泣く気分にはなれないが皆が泣いた時のために目薬を持って行って周りが泣いたら使おうと思っていたそうです。ところが誰も泣かなかったそうです。76年毛沢東死去時には全国の人が葬送の気分になったが、鄧小平の時は普通の社会生活でした。これは社会の変化、両指導者の死の意味

が180度違うものを実感しました。2年半の駐在時に2つの印象深い体験をしました。一つは北京郊外でかつて日本軍の駐屯地のあった門頭溝という所の農家に一晩泊めてもらった時、そこのお爺さんに「生きた日本人に50年ぶりに会った。」と言われ、また2000年に雲南とミャンマーとの国境の町、畹町に視察に行った時、村長からここは1942～45年の3年間日本軍が駐屯していたと聞かされた事です。かつての戦争は人民の記憶にしっかりとまだ根付いているなと感じました。これは歴史問題に関して経済活動をしていく上で実際に経験したことです。もう一つは96年北京の日壇公園で中国拳法を習っていたころ、当時の橋本首相が自分の誕生日に靖国神社を参拝しました。拳法の練習中、若い中国人男性が近づいて来て「あなたは日本人か、橋本首相の靖国参拝をどう思うか。」と聞いてきました。私自身は総理の靖国参拝はけしからんと思っているのでそう答えようと思っていたら、拳法の先生が割って入り「おまえは何物だ。この人は私の友人で拳法の練習をしている。そんな問題を話す場じゃないじゃないか。」と一喝してくれました。先生はごく普通の庶民ですがそういう場でどういう発言をしてどう対処するか分かっていて感銘を受けました。私が逆の立場だったらそのような態度がとれるかどうか。最近のサッカー騒ぎとは結びつかないかもしれませんが、我々の中国人との付き合いのスタンスによって中国人の対応も変わってくると感じました。

■21世紀《共通の経済圏形成に向かう10年》

2001年12月10日に中国はWTOに加盟し、日中間では農産物貿易摩擦、残留農薬問題が起きました。中国の今後の目標は2020年に全面的な小康社会実現をめざし、一人当たりのGDPを4000ドルにする、もう一つは中華民族の偉大な復興です。日本企業の対中投資累計は3万件に、投資金額累計は450億ドルに上り日中関係は今「政冷、経熱」の状態です。これは小泉総理が2001年総理になられてから毎年靖国に参拝している関係で、この3年間一度も日中首脳交流が行われていないため、これが経済一体化の足枷になっています。共通の経済圏形成に一步近づくためにFTA（自由貿易協定）が話題になっていますが、これには首脳どうしの話し合いが必要になります。日中経済協会代表団が温家宝総理と会談した時、温総理から「一部の政治家の歴史認識が問題なため日中間はうまくいっていません。」と言われ、それに対して日本の経済産業省の大臣は「次元の低いことをおっしゃる。もっと経済を重視すべきではないか。」といった発言をしました。次元の高い経済関係を築くためにこそ首脳どうしの理解が必要であり、そういう発言をする方が経済産業省のトップであるのは困った事だと思います。

国民レベルで日中交流が必要であると同時に、日本政府は経済と政治は別々ではないと理解していただき歴史問題に対してもしつかりとした答えを出してもらいたいと思います。政治の世界もグローバル化が進んでいて日中関係といえどもイラクやテロ問題と結び付き、全て二国間では片付けられない時代になってきました。そのためにも歴史問題では外国から言われるからというのではなく、日本人自身の問題として何よりも優先してその問題を論議して、過去の戦争をどう位置付けるか方向性を出さないと中国だけでなく諸外国からも相手にされない状態になるのではないのでしょうか。

中国語通訳—現場からの報告

日本ビジネス中国語学会 第18回シンポジウム

2005年3月12日

永富 健史

通訳と言いますと、今では帰国子女のバイリンガルや留学経験のある方々など両国語に精通した国際人がたくさんおられますが、私は日本で生まれ教育はすべて日本で受け、中国への留学や長期駐在の経験ありません。従って、私の思考法や感性は一般の日本人と同じものといえるでしょう。そのような普通の日本人が日本国内で中国語を勉強してどのような体験、失敗をしながら通訳の仕事をしてきたか、日本人通訳者の立場から述べてみたいと思います。

1. 通訳者の役割

(1) 通訳に徹する

通訳とは発言者の話したことを別の言語に訳すことです。しかし、この通訳として当然のことがうまくできずに、クライアントからクレームが出る場合があります。つまり、通訳者が発言者の話を勝手に要約したり、自分の意見まで付け加えて通訳し、どこまでが発言者の発言内容なのか分からなくなることがあります。まず、通訳者としての立場を明確に自覚することが必要です。



(2) 通訳はコミュニケーション・コーディネーター

通訳はコミュニケーション・コーディネーターであると思います。コーディネーターとは調整役、まとめ役のことですが、これは最初に述べました「通訳に徹する」ということと一見矛盾しているように思われるかもしれませんが、そうではありません。つまり、通訳とは発言者の発言趣旨を相手側に正確に伝え、コミュニケーションがスムーズに運ぶための調整的役割を担っているといえるでしょう。通訳とは言葉を訳すのではなく、意味を訳すということだと思います。そのためには通訳内容に関するさまざまな知識が必要であり、日中両国の常識、習慣などにも通じていることが求められます。また、商談通訳においては、コンサルタントとしての役割も必要になってきます。つまり、中国ビジネスに関する知識、中国事情、中国人の思考法などについて発言者に客観的に情報を提供することが必要な場合があります。特に中国事情に通じていないクライアントに対してはこれが必要になってきます。しかし、ここで注意しなければならないのは、通訳は決して仲人役をつとめてはいけないということです。商談の成約如何を判断するのはあくまでも発言者本人であり、通訳者は客観的な情報提供に徹することが求められます。

2. 通訳のテクニック

先ほど通訳者はコミュニケーション・コーディネーターであると申しましたが、通訳には単に言葉の置き換え作業を行うだけでなく、双方の意思疎通が円滑に運ぶようにさまざまな工夫が必要であると思います。そのような意味でのコミュニケーション・コーディネーターが必要になってくるわけです。以下、具体的にご紹介いたします。

(1) 加訳

1) 話し手にとっては既知の情報であるが、聞き手にとっては未知の新情報を通訳する場合は、限られた通訳時間内でできるだけ具体的なイメージを与えることが必要です。

例：門司港レトロ

日本語原文：「今日、皆さんは門司港レトロに行かれるそうですが、充分に楽しんできてください。」中国語通訳：「今日、皆さんは門司港レトロに行かれるそうですが、ここには20世紀初頭に建てられた欧風建築物がたくさん集積されており、ここはレトロな雰囲気満ちた遊覧地区です。充分に楽しんできてください。」

ポイント1. 加訳を行う。（太字部分）

ポイント2. 「レトロ」は定訳を通訳者が独自に作る。ex. 怀旧游览区

2) 固有名詞の定着化

例：北九州北九州～都市なのか、地域なのか。特にパンフレット作成には要注意。

「北九州」という都市名が中国人にとって新情報である場合、「九州北部」と間違える中国人がいます。「北九州」では固有名詞としての安定性に欠けるので、「北九州市」としたほうが分かりやすい。

3) 行政単位の違いに注意

「県」と「市」は日本と中国では行政レベルの上下関係が逆なので、その補足説明が必要な場合があります。

4) 訳語の適正が判断できない時の加訳

例：動脈産業と静脈産業は車の両輪（環境保全関係）

「車の両輪」（车之两轮）という比喻表現が中国人に通用するかどうか判断できない時は加訳を行います。

訳例：动脉产业和静脉产业如车之两轮，两者相辅相成，缺一不可

(2) 意識

例1. 語義を正確に理解することが必要。日本語の「会議」は「会议」と「会议机构」の訳し分けが必要な場合があります。「会議」と「會議機構」「東アジア都市會議が第三回市長會議を北九州市で開催しました」

东亚城市会议（机构、组织）在北九州市召开了第三次市长会议。

例2. いつもご迷惑をおかけしています。（日本語に引きずられないこと）場面に応じて訳し分けが必要

×我们一直给你们添麻烦，真对不起。

○非常感谢你们一直以来给予我们的支持和帮助。

例3. ちょっとお寄りしました。（言語習慣の違い）北京に来ましたので、ちょっと時間があってお寄りしました。

日本語的発想の中国語：这次我们到北京来，今天有空临时（顺便）来拜访你了。

北京に来まして、今日は時間があつたので、ついでにあなたを訪問しました。

中国語的発想：我们到北京来，今天抽出时间特地来拜访你了。

北京にきまして、今日は時間を割いてあなたをわざわざ訪問しました。

例4. 論理展開の仕方

日本人の話し方：謙遜した表現例文：「当社は零細企業で今までに中国との取引経験もありませんが、当社の発展のためにぜひとも中国に進出したいと思っております。ご指導のほどよろしくお願いいたします。」（消極的で曖昧な表現）

上記例文の中国語通訳例は以下のとおり「当社の規模は決して大きくはありませんが、当社をさらに発展させるために中国との取引を積極的に促進していきます。そこで、貴社との協力関係を深めていきたいと希望いたします。」（積極的で具体的な表現）

* 上記通訳は決して誤訳をしているわけではなく、積極的な表現に改めたものであり、中国語側に良い印象を与えるためのものです。この例でお分かりのように、通訳者はまさにコーディネーターでなければならないと思うわけです。

(3) 倒訳

a) 論理的倒訳

日本人の論理展開：説明→結論、原因→結果

中国人の論理展開：結論→説明、結果→原因

日本人の表現の仕方は曖昧であると言われるますが、これは論理展開の仕方に起因すると思われます。最初から結論を言ってしまったのでは露骨すぎて、身も蓋もない、相手に失礼であると日本人は感じてしまうようです。これは日本人特有のものであり日本人社会では円滑なコミュニケーションをはかるために良い働きをしていると思いますが、国際社会においては摩擦を起こすかもしれません。一方、中国人は合理性を重んじるようです。最初に結論を言ってから、その後でその結論に到った説明をするというパターンが多いようです。あまりに最初の説明が長いと、何を話しているのか話の趣旨が途中で分からなくなる場合すらあります。従って、通訳者は先に結論、Yes No を言って、または要旨を述べて、その後に詳細な説明をするという論理展開に基づく通訳を心がけるべきでしょう。

b) 語順の倒訳

通訳者は論理的思考に基づいて語順を意識することが必要です。日本人には曖昧な発言が多く、通訳に困ることがあります。そういうときは論理的に発言内容を頭の中で整理して、語順を決めていく訓練が有効的であると思います。

例：×我が国の経済を活性化させ、規制緩和を実現するために・・・

○ 規制緩和を実現→経済活性化

○

(4) 主語を意識しながら文章を組み立てる

日本語は主語を省略して話しても意味は通じますし、逆に主語を入れすぎるとごちゃごちゃになり日本語になってしまいます。しかし、中国語の場合には基本的には主語を補う必要がありますから、日本語の中から主語を特定する、または主語、主題を作り出す中国語構文を考える訓練が必要です。普段から主語を意識して考える習慣を身につけると良いと思います。

(5) 短文化

中国語は長いセンテンスを嫌うので、できるだけ文章を短く切って整理しながら、たたみかけるように通訳するほうがよいでしょう。日本語では発言者が1センテンスの中にたくさんの情報を入れ込もうとする傾向にあります。それをそのまま直訳式で通訳しようとすると、息切れして失敗することがあります。この場合は文章を出来るだけ短い情報単位に区切って、論理の順序に合わせて語順を決めながら通訳する方が上手くいくと思います。

例：北九州市は九州の最北端に位置する人口100万人を有する重化学工業を中心とする都市です。

北九州市位于九州岛北端，人口有100万人，是以重化学工业为主的城市。

(6) 数字の記憶の仕方数字を聞くと同時にそれを直ぐにアウトプットできれば問題はないわけですが、それができないときはどうすればよいか。その時は、発話された数字を一度丸ごと音声として捉えて、その音声を頭の中で反復させると同時にメモするまたは頭の中でデジタル化する方法を採ります。もちろん、反復とはいっても時間にすれば、わずか2～3秒のことであり、これも数字の音声を文字化する時の反応法のひとつであると思います。

(7) 曖昧な日本語

日本語には訳しにくい言葉があり、その発言内容のコンテキスト（語境）に合わせて訳し分けが必要な場合があります。以下、例を挙げてみます。

1. 整備（せいび）：

新建、改建、扩建、完善、完备

例：上下水道、道路の整備、市街地、埋立造成地の工業団地、空港

2. 取り組み：

国語辞典の解釈では「熱心に事にあたる」、「処理すべき事柄に熱心に立ち向かう」となっています。つまり、何かの目的を達成するために、実現するために、何らかの対策、手段をとって、努力することです。中国語には「取り組み」という言葉の定訳がありませんから、コンテキストにあわせて訳し分けが必要になってきます。

「取り組み」訳語のキーワード：

専心、认真、努力、致力于、为实现～、采取措施

3. 仕組み、仕掛け：

机制、结构、体系、体制、制度、方式、手段

4. 枠組：

框架、体制、体系、制度

5. 協力：

合作、协作、协助、支持

合作、协作～ 対等の立場「矢印は双方向」

协助、支持～ 一方がもう一方を傍らから助ける「矢印は単一方向」

通訳メモ：日中通訳の場合はコンテキストに合わせて訳し分けが必要であり、このような点から見ると中国語の方が合理的であり、中日通訳のほうが日中通訳よりもやりやすいという一面があります。つまり、日本人の発言はそのまま訳しても中国語にならず、逆に中国人の発言はそのまま訳してもきちんとした日本語になりやすいということです。

6. 元号換算：日本語の元号を中国語に通訳する場合は西暦に換算して通訳します。換算法は下記のとおりです。通訳者はこの換算法に基づき、即時に西暦に換算して通訳する必要があります。

平成？年＝1900＋（？＋88）年

昭和？年＝1900＋（？＋25）年

大正？年＝1900＋（？＋11）年

明治？年＝1900＋（？－33）年

（8）中日翻訳における注意点

中日通訳の場合はできるだけ漢語は避けて、大和言葉を使った方が良いと思います。漢語は同音異義語が多く、漢語を多用すると聞き手にとっても聞きづらい日本語になってしまいます。中国語の漢字に引きずられず、大和言葉を使ったこなれた通訳表現を心がけるべきでしょう。そのほうが通訳作業もスムーズにいくという実感があります。

（9）日本人と中国人の言語表現・習慣の違い（日本人から見た場合）

例1. 信心

中国語に「信心」という語があります。下記の例を見てください。この表現は日本語に直訳すれば下記直訳のとおりです。このまま直訳で通訳すると、日本人であればたぶん、「この人は自信過剰だな！態度が大きいいし、謙虚さがなく、かえって不信感すら感じる」となるのではないのでしょうか。これは中国人から言えば、積極性、主体性のある決意表明であり、プラス思考であるわけです。しかし、この言葉は日本人の耳にはなじみません。そこで、日本人向けに通訳する時、下記のように意識してはいかがでしょうか。

我有信心完成这个任务。

直訳：私にはこの仕事をやり遂げる自信があります。

意識：この仕事をやり遂げるよう最善を尽くしたいと思います。

通訳雑感：「信心」とリンクする言葉「没问题」

中国語の「没问题」も「～有自信・・・」と同様に、ある種の決意表明、努力目標のニュアンスを含む表現ではないのでしょうか。日本人が日本社会で「問題ありません」と言われれば、相手はそれなりに確信と責任を持って言っているのであり、尊重すべき発言と受けとめるでしょう。ところが、中国語の「没问题」は日本語の「問題ありません」と比較して相対的に軽く、同一視しないほうがよいでしょう。これは別に善し悪しの問題ではなく、社会システム、言語習慣の違いに起因するのではないのでしょうか。直訳＝意識ではな

いということです。

例2. 責任：那不是我的责任。

直訳：それは私の責任ではありません。

意識：それは私の担当ではありません。

例3. 「知道」という語

直訳式：分かっています。知っています。

日本語的意識：おっしゃるとおりです。→日本人が中国人から「我知道」と言われると、「それは言われなくても分かっています」というような強い語感を感じることがあります。中国人は「知道」、「不知道」とはっきり言います。これは別に相手を詰問しているわけではなく、中国人の普通の言語表現です。日本人の場合は「おっしゃるとおりです」、「それはちょっと分かりません」などと婉曲的で柔らかい表現を使いますから、そのように感じるのでしょう。

例4. 名前の呼び方

日本：“さん”などの敬称をつけるのが丁寧な言い方

中国：「先生」などの敬称略で相手の姓を呼ぶのは親しみのこもった気持ちをあらわす。→この習慣を知らないと、日本人は自分の名前が呼び捨てにされたと思い、気分を害する人がいるかもしれません。

例5. 電話の対応中国に電話をかけた時、相手側からいきなりぶっきらぼうに“你是谁呀？”と言われて一瞬驚くことがあります。そして、電話の相手が自分の知り合いの日本人だとわかると急に口調が丁寧になってきます。また、中国から“～さん、いますか”と電話が掛かってきた時、“どなたですか”と2回ほど聞き返すと、相手からは強い口調で“～さんはいるのですか、いないのですか”という強い口調の返事が返ってきます。こちらが本人だと分かると口調が丁寧になる。これは日本人の習慣にはないものです。つまり、中国語では知り合い（自己人）には親切だが、部外者（外人）に対しては素っ気ないということです。決してこちらに対して個別的な悪意を持っているわけではありません。これも最近ではかなり変化が見られ、中国の企業へ電話した時にはやさしく対応してくれるようになりつつあります。

例6. 社交辞令について

社交辞令においても具体的に考え表現する習慣が必要ではないか

例) 日本人が中国の友人に例えば「青島は最近どうですか？」と聞きました。それに対する中国の友人の返答は「何がですか？」でした。その時、日本人は自分が相手に「青島の何について」聞こうとしていたのか具体的に何も考えておらず、空疎な社交辞令の言葉に気づくということがあります。これも言語習慣、発想法の違いを示す一例でしょう。

(10) ヒアリング対策

1. 新語に常に関心を持ち続け、吸収すること。

インターネットおすすめサイト：

共同通信社の中国語サイト <http://china.kyodo.co.jp/>

スカイパーフェクト・テレビ～衛星放送

2. 略語に対する警戒心、略語を見抜く感性を磨くことが必要

普段から語彙の簡略構造、簡略の仕方に注意を払うことが必要です。

例：南科（南部科学工業園區）、竹科（新竹科学工業園區）、周总（周總經理）

3. 習慣的な言い方商談で工場を訪問した時のことですが、まず双方の紹介から始まりました。その時、中国側にはなんと工場長が4人もいました。そこで、どの人が工場長だと再確認すると、みんな工場長だということです。すなわち、中国では相手を尊敬する意味で、口語では「副」を省略する習慣があります。その工場には一人の工場長と3人の各部門担当の副工場長がいたわけです。中国側はそれを既知のこととして日本側に説明しません。これも中国的な習慣のひとつであり、通訳としては当然心得ておくべきことであったわけです。

4. 方言対策。通訳には方言に関する知識も必要であると思います。標準語と各地の方言では発音が規則的に異なっていますから、その変化の規則性を覚えていると役に立ちます。なかなか容易なことではありませんが、耳を鍛えるとともに文脈から類推する力を養うことも必要です。

例：希望または企望？：Qi Meng（タイの華僑）

(11) 人称について

通訳するとき、文章の最初に「他说」をつけてはいけません。通訳者本人は黒子になりきるわけであり、通訳者個人の人称「我」は存在しませんから、通訳文の頭に「他说」をつけてはいけません。発言者と同じ人称の立場で通訳する必要があります。

(12) 発言者の話をよく聞くこと日中双方に通訳がいて、中国側発言者の話を中国側の通訳が通訳をしているとき、日本側通訳者は気を抜いてはいけません。中国側の発言内容と中国側通訳の通訳する日本語を対照させながらよく聞いておかねばなりません。それを怠ると後でつげが回ってきます。すなわち、日本側が中国側の言葉を受けて、同じ言葉を中国側に返す時、もし日本側の通訳がその言葉の中国語を知らない、または聞き取っていなかった時、通訳はうまくいきません。特に地名、人名などの固有名詞、専門用語、引用などに顕著にその影響がでてきます。

例1：スワップ協定：货币互换协定 ～金融専門用語

例2：現代中国是要看天津。 ～引用

(13) つなぎの言葉：通訳の途中で沈黙しないこと通訳の途中で言葉がつまった時は沈黙せずに何かつなぎの言葉を見つけて発話したほうがいいでしょう。通訳が黙り込んでしまうと、発言者は通訳が終わったと思って、話を次に進めていきます。たとえば、就是说、我的意思是说 などの言葉を少しゆっくりしたスピードで口にしながら、時間稼ぎをしてその間に表現法を考えるといいでしょう。とはいってもわずか数秒にしかありませんが、これもひとつの方法です。しかし、乱用は禁物ですし、また必要もないのに、这个、那个 を連発するのもよくありません。これは聞き手にとってはとても耳障りなので、この癖は直した方が良いでしょう。

(14) 変訳

戦争をイメージさせる言葉の通訳には注意が必要だと思います。中国語通訳は日中関係の歴史を十分に理解・認識し、不用意な発言内容の通訳には工夫をしなければなりません。

例：異国情緒あふれるXXX、戦前から中国大陆との貿易の窓口であったXXX、昔から多くの外国人で栄えた国際都市－上海

3. 通訳練習法

(1) 速読訓練

目的：通訳時間は発言者の発言時間を超えてはならないというのが基本ですが、実際にはそれが難しい場合もあります。通訳テクニックの加訳のところで述べましたように、補足的説明を要する場面では通訳は発言者よりも多くの言葉を費やさなければなりません。そこで、どうしても通訳のスピードを適宜上げざるを得ません。そこで、普段から速いスピードで話せるように訓練する必要があります。私の経験から言いますと、本を大きな声で速読するのも良い方法だと思います。その時の注意点として以下のとおり声調・発音の正確さ、強弱アクセント、呼吸の入れ方が挙げられます。

1) 声調、発音の正確さと読む速度読む速度を上げると、発音が不正確になり、声調が不安定になり、抑揚がなくなり、平坦な話し方になってしまいます。逆に声調に重点を置くと、発音は正確になりますが、スピードが落ちてしまいます。しかし、この問題は訓練を重ねることにより克服できると思います。日本語は高低アクセントであり、中国語の声調（四声）のメロディーのような抑揚はありませんから、注意を怠ると日本語の癖が出てしまい、上がり下がりのない平坦な中国語になってしまいます。そこで、日本人が中国語らしい中国語を話すためには、声調の一声を高く維持し発音するように心掛ければよいと思います。そうすれば音域が広くなり、2声、3声、4声も抑揚がもっと鮮明になり、中国語らしくなります。1声が低いのが日本人の中国語の欠点のように思います。

2) 呼吸の入れ方

意味単位で呼吸（ポーズ）を入れたり強弱アクセントをつけることによって、聞き手にわかりやすい中国語になります。すべての音節を等間隔で一本調子に話すとメリハリがなくなり、意味の取りにくい聞きづらい中国語になってしまいます。

3) 通訳に必要なスピード感

入門・初級段階でゆっくり読む癖を付けてしまうと、中級段階になってもなかなかスピード感のある中国語は話せないように思います。従って、すこしきついかもしれませんが、入門・初級段階から速いスピードでメリハリのある中国語を話す訓練をしたほうがよいと思います。学習が進み中級段階になってからスピードを上げようと思ってもなかなか難しいと思います。それではなぜスピード感が必要かと言いますと、「加訳」と関係があります。日本人の発言者にとっては既知の情報であっても聞き手にとっては未知の新しい情報である場合、通訳者はその新情報を補足説明的に通訳をしなければなりません。そうすると、発言者の日本語分量と比較して、通訳する中国語の分量が増えてしまい、通訳のスピードを上げないと、発言者の発言時間と通訳者の通訳時間のバランスが崩れてしまいます。発言者が少ししか話していないのに、通訳が長すぎるという違和感を与えてしまうわけです。それを避けるために通訳のスピードアップが求められる場合があります。

4. 通訳者はコーディネーター

(1) 商談通訳を行う時の注意事項商談通訳をおこなう時、例えば合作企業（合作企业）と合弁会社（合资企业）の違いなどビジネス用語の定義を理解しておく必要があります。また、商談の中で数字が飛び交うとき、通貨単位を確認することも大切です。商談通訳を

する場合は、通訳者自信が中国ビジネスの現場経験者であったほうが望ましいと思います。

(2) 暗喩について

1) 日本人が好きな天気の話には要注意日本人は面談の席で話の口火を切る時、よく天気の話をしてします。天気が良いときは良いのですが、大雨、台風など天気の悪い時は中国側に対して天気の話はしないほうが良いでしょう。特に中国側が日本を訪問してきた時、「今日はあいにく天気が悪くて・・・」と話し始めると、中国側が悪い天気を持ってきたという不吉な暗喩を含むことになる場合があります。「今日は皆さんが良い天気を持ってきてくれました」というのであれば、友好ムードでいいのですが、その逆は避けたほうが良いでしょう。このような場面では通訳にも工夫が必要だと思います。例えば、雨であれば「及时雨」、「留客的雨」などです。

2) 中国人へのお土産中国人へのお土産としては、ハンカチ、傘、置き時計、掛け時計などは縁起がよくないので避けたほうがよいと思います。また、風呂敷もよくないようです。「風呂敷」には中国語では暗喩として「精神的な負担、重荷、圧力、悩みの種」などの意味があります。中国人へのお土産としては相応しくありません。

5. 通訳で気になる事

(1) 単語や言い回しを変えながら同じ事を繰り返して言う日本人

例：えー、本日は皆様ようこそおいでくださいました。私はただいまご紹介を賜りましたXXXと申します。皆様のXXX市ご訪問を心から歓迎申し上げます。(通訳)

*この例は「ようこそおいでくださいました」、「心から歓迎申し上げます」と同じことを表現を変えて二度言っている。

(2) 羅列的表現の多い日本語(話の途中で急に話題が変わり、文脈の前後の内容に関連性が見られず、話の主旨が不明瞭になる。)

(3) 我们、咱们について

「咱们」は聞き手を含む「私たち」ですが、「我们」は聞き手を含まない場合と含む場合があります。従って、商談、協議などの場面で「我们」が出てきた時は確認する必要があります。特に契約に関する双方の責任分担、免責事項などの通訳をする場合は、「我方」、「贵方」、「我们双方」などの表現を使い、間違いを避ける工夫をしたほうがよいと思います。相手側が「我们」と言ったので相手側のことと思っていたら、実はこちら側も含まれた意味の発言であったということもあります。このような初歩的な間違いは避けたいものです。

6. 通訳での失敗談

例1. 会见：会见を受ける側が主語となり、会见を求める側が目的語の位置になる。逆にならないように注意すること。

例2. 退休、辞职：「退休」は定年退職、「辞职」は単に勤めている会社などを辞めることを意味します。例えば、若い人がある会社を辞めたときに、「我退休了」とは言えないわけです。

7. スピーカー、クライアントへの要望

(1) スピーカーが手持ち原稿を読み上げる場合特にスピーカーがスピーチ原稿をそのま

ま読み上げるようなスタイルを採るときは、必ず事前にスピーチ原稿を通訳者へ提供してほしいと思います。スピーチ原稿は事前に文章がよく練られており、要旨が無駄なく凝縮して盛りこまれていて、文章に冗長性はありません。その場合、通訳者にスピーチ原稿が事前に渡されていない状態で即席通訳をおこなう時、通訳者にはその原稿を十分に練って等質の凝縮した通訳文にまとめる時間的余裕はありません。通訳者としては、その文章を一度分解して、スピーチ内容の主旨をピックアップし再構築しながら通訳することになります。これは通訳にとっては不利な状況にあります。一方、スピーカーがスピーチ原稿を持たずに即席でスピーチする場合は、もちろん通訳者にも原稿は必要ありません。その場合、スピーカーは言葉を選びながら話していますから、冗長性のあるゆっくりした話し方をすることになります。当然、言い回し、語彙なども事前準備のスピーチ原稿のように練られた難しいものにはなりません。この場合はスピーカーと通訳者が同じ土俵の上で渡り合っていることになると言えるでしょう。すなわち、スピーカーが手持ち原稿を持っているながら、通訳者にその原稿が与えられていないというのは、スピーカーと通訳者が同じスタートラインに立っていないということです。これではせっかくの名演説も台無しになってしまうでしょう。

(2) 通訳内容に関する情報・資料の提供通訳にとってまず大切なのは、通訳内容を事前に充分理解しておくということです。もちろん、専門用語などの訳語の調査・準備は必要ですが、それとともに通訳内容に関する具体的な状況、例えば今までの交渉過程や仕事の流れ、当事者の人間関係、各種専門・技術分野であれば、それに関する基本的知識などを理解しておくことが必要です。そこで、通訳としてはクライアントができるだけ多くの関連情報・資料を提供してくださるよう希望いたします。

以 上

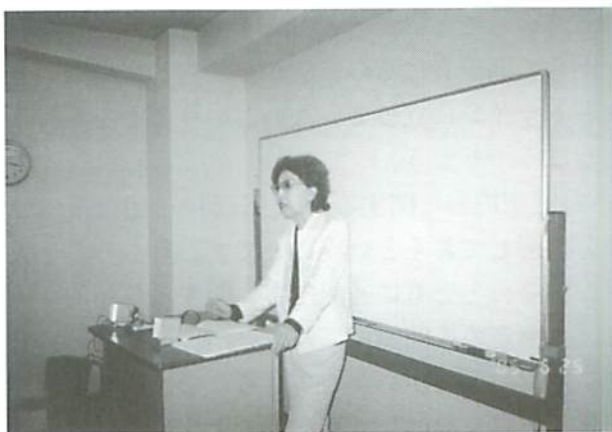
2005年6月25日

ビジネスに欠かせない時事中国語について

—日本発の中国語ニュースと中国発の日本関連報道—

流通科学大学名誉教授 待場 裕子

日中間のビジネスを進めるに当たり、当事者たちはその時々あらゆる社会的環境、歴史的背景、懸案事項などを熟知しておくことは、きわめ重要なことです。しかもそれらについて流暢な言語によってコミュニケーションできれば、相互理解に大いに役立つでしょう。「ビジネス中国語」の一環として、時事中国語が語られることがもとより重要且つ必要であり、これが日中間の真の理解を深め、昨今のような憂慮すべき事態の打開につながることを、切に願う者の一人です。



「時事中国語」をとりあえず次の範疇に分類してみます。

- (A) 中国発信の中国語ニュース（文字と音声）→例 人民日報、CCTVなど
- (B) 上記の日本語訳（文字と音声） 北京週報 北京放送など
- (C) 日本発信の日本語ニュース（文字と音声） NHK、民放、各新聞など
- (D) 上記の中国語訳（文字と音声） → 例NHKラジオ国際放送の中国語ニュース
インターネット上のワールドデイリーニュースなど

ビジネスマンは上記の内容を常に理解しかつ運用することが求められます。

因みに（A）は中国のネイティブにとって、（C）は日本のネイティブにとっては、なんら問題無さそうですが、このネイティブが逆になると大いに問題になるので、敢えて取り入れました。当学会の会員諸氏は日中両国のいずれかの国籍である方が多いからです。

時事中国語の習得パターンとしては、学習者のレベルに応じて、様々な教材、様々なトレーニング方式が考えられます。相互のコミュニケーションを可能にするには、音声訓練

が重要であり、時事中国語を単に目読するだけでなく、これを更にコミュニケーションの場で自在に使いこなせるように努めなければなりません。これは通訳のトレーニングと共通する部分もあります。トレーニング方式として、基本的には次のようなパターンが考えられ、習熟の度合いによりこれらを有効に活用してゆきます。

- (1) 原音声の「原稿あり」シャドウイング → 逐次通訳 → 同時通訳
- (2) 原音声の「原稿ナシ」シャドウイング → 逐次通訳 → 同時通訳
- (3) 文字原稿（中・日）のスラッシュリーディング。(4) の予備作業として。
- (4) 文字原稿（中・日）の翻訳 音声をやどみなく読み上げ翻訳すること、または文書化など。

トレーニング方式の詳細は別の機会に述べたいと思います。

今後、折々のニュース（中国語と日本語、文字と音声）の断片を提供して、これらの話題に関わる翻訳上の問題について、皆様からの多くのご示教を得つつ、学会としても時事中国語のデータを系統的に蓄積して行くことを提案し、その面でお役に立てればと考えております。

今回は次のニュースソースより、時事中国語の話題を提供します。

(1) 音声

A. 東シナ海ガス田調査関連

(NHK ラジオ 国際放送中国語ニュース 2005/04/02 より収録)

B. 人民元為替レートの改革について

(NHK ラジオ 国際放送中国語ニュース 2005/06/11 より収録)

C. 京都でASEM外相会議開催

(「週聞中国語世界」2005年5/26 No.350 より)

今回の発表では、トレーニング方式(1) 原音声〔中〕の「原稿あり」シャドウイング → 逐次通訳 → 同時通訳 を採用。

(2) 文字原稿

A. 人民日報 海外版 2005/04/27 望海楼 「理性看待中日经贸合作」より

B. 人民日報 海外版 2005/05/10 望海楼 「灾难为镜 历史为书」より

今回の発表では、トレーニング方式(4) 文字原稿(中)の翻訳 音声をやどみなく読み上げ翻訳することを採用。

音声

A. 東シナ海ガス田調査関連

日本経済産業省昨天公布了一份有关中国在日本专属经济水域附近的东海开发天然气问题的调查结果。

调查显示，有关人员已经基本确认到，在中国正在开发的“春晓”和“断桥”两个气田南面与之临近的日本方面海底发现了可能含有石油和天然气的地层，这部分地层跨越日中边界线，使双方的资源连通起来。

日本政府计划下周就将调查结果通过外交途径通知给中国方面，并再次要求中方停止开发活动。如果中方在那之后没有改变态度的话，日本政府则将考虑向不断提出开发申请的民间企业发放试采权，允许他们试验性地开采日本方面的资源，以便更为详细地调查这些资源的状况。

不过，即使设立试采权，政府也将再次研究是否真正让企业开始开采资源的工作。而另一方面，估计中方会对日本的这一系列计划表示反对。今后日中两国间的协商将何去何从，目前依然很难做出判断。

関連語彙

日本专属经济水域	日本の排他的経済水域
东海	東シナ海
气田	ガス田
日中边界线	日中境界線
外交途径	外交ルート
试采权（试挖权）	試掘権
开采	採掘
一系列	一連の
何去何从	行くえ

日本語訳

経済産業省は昨日、中国が日本の排他的経済水域付近の東シナ海で天然ガス開発をしている問題について、その調査結果を発表しました。

それによると、中国が現在開発を進めている「春晓」と「断桥」この二つのガス田南側に近接する日本側の海底において、石油と天然ガスを含む可能性のある地層が発見され、この地層が日中の境界線を跨いでおり、双方の資源は連なっていることが基本的に確認されました。

政府は来週この調査結果を外交ルートを通じて中国側に通知し、中国側に開発活動を中止するよう再度求めることとなります。もし中国側がその後も態度を改めないという

ことであれば、政府はしきりに開発の申請を打診している日本の民間企業に試掘権を与え、彼らが試験的に日本側の資源を採掘することを許可して、これらの資源の更に詳細な状況を調査する構えです。

ただ、採掘権というものを設けたとしても、政府としては本当に企業に資源の採掘事業に着手させるかどうかは、あらためて検討するもようです。一方中国側は日本のこの一連の計画には反対の表明をすることが予想されています。今後日中両国間の協議の行くへはどうなるか、今のところ予断を許さない状態が続いています。(筆者記)

B. 人民元為替レートの改革について

因出席 8 国首脳会议财长会议而正在伦敦访问的日本财务大臣谷垣禎一 10 号与美国财政部长斯诺举行了会谈。双方一致认为，中国事实上对人民币实行固定汇率制，将其控制在较低水平，应该要求中国尽早对人民币汇率制度进行改革。

会谈中，谷垣就人民币改革说：“中国经济规模发展到如此之大，仅从提高其自身政策的自由度这个意义来讲，也有必要尽早采取措施。”

此外，谷垣还表明了日本要求中国尽早进行改革的立场，他说：“中国应该基于现在的各种情况审视这一问题，并在一定程度上果断做出应对。”

对此，斯诺也指出：“中国经济现在已经具备了灵活汇率制度的条件，应该立即制定这方面政策。”双方就要求中国尽早实施人民币改革达成了共识。

另一方面，8 国首脑会议财长会议将在 11 号就人民币汇率问题以及如何稳定扩大世界贸易等议题交换意见，届时，中国、印度等经济持续高度增长的 4 个国家的代表也将出席。

関連語彙

主要国首脳会议	主要国首脳会議（グレンイーグルズ・サミット）
财长会议	財務相会合
斯诺	スノー
美国财政部长	米財務長官
汇率制	為替制度
控制在了…水平	…のレベルに押さえられている
审视	詳しく見る よく見る
一定程度上	ある程度
果断做出应对	果断に対応する
灵活	柔軟にする
达成共识	共通認識に至る 意見の一致をみる

日本語訳

8カ国首脳会議に出席するためロンドン訪問中の谷垣禎一財務相は10日スノー米財務長官と会談を行いました。中国が事実上人民元の固定為替レートをとっており、それを比較的低いレベルに抑えているため、中国に対して早急に為替レート制度の改革に着手するよう求めてゆくことで意見の一致を見ました。

会談において、谷垣財務相は人民元の改革について、「中国の経済規模が拡大し、自身の政策の自由度を高めるという意味においても、早急に措置を講じるべきだ」とのべました。

一方、谷垣財務相は中国ができるだけ早く改革をすることを求める立場を表明し、「中国は現在の様々な状況に基づいてこの問題をつぶさに観察し、ある程度果断に対応するべきだ」と述べました。

これに対し、スノー米財務長官も「中国経済はすでに為替制度を柔軟にする条件をそなえているので即刻この面の政策を定めるべきだ」と述べ、双方は中国に早急に人民元改革に着手するよう求めてゆくことで一致しました。

一方、8カ国首脳会議の財務相会合が11日、人民元の為替レートの問題と、世界貿易を如何にして安定拡大してゆくかという議題について意見交換する予定で、中国、インドなど経済の高度成長を続けている4カ国の代表も出席する予定です。(筆者訳)

C 京都でアジア欧州会議 (A S E M) の外相会議開催 亚欧外长会议在京都召开

亚欧会议外长会议5月6日到7日在京都召开, 38个国家的外长出席了会议。

会议期间除了举行东盟(ASEAN)加3(中日韩)非正式外长会议之外, 还举行了日中、日韩双边外长会谈。在日中会谈中, 日本外相町村信孝与中国外长李肇星就中日交流等问题进行了进一步的磋商, 签署了扩大两国各个方面的交流以及解决各种悬而未决的问题为宗旨的《日中共同工作计划》。人们希望此次会谈能够改善近来摩擦不断的日中关系。

関連語彙

亚欧外长会议

アジア欧州会議 (A S E M)

东盟

東南アジア諸国連合 (A S E A N)

非正式

非公式

外长会议

外相会議

双边

二国間の

磋商

協議する

签署

(重要書類に) 署名する

悬而未决

懸案となっていて、未解決のままの

(搁浅)	暗礁に乗り上げる
…为宗旨的…	…を趣旨とした
日中共同工作计划	日中共同作業計画
摩擦不断的…	摩擦の絶えない ギクシャクとした

日本語訳

アジア欧州会議の外相会合が5月6日から7日にかけて京都で行われ、38カ国の外相が会議に出席しました。

会議の期間中、アセアン+3（中日韓）の非公式外相会議が開かれたほか、日中、日韓の二国間外相会議も行われました。日中会談では町村外務大臣が中国の李肇星外相と中日交流等の問題について一歩進んで協議し、両国の各方面の交流を拡大し、様々な懸案事項の解決を趣旨とした「日中共同作業計画」に署名しました。今回の会談によって最近のギクシャクした日中関係が改善されることが期待されています。（筆者訳）

(1) 文字原稿

(A) 「灾难为镜 历史为书」（人民日報海外版 2005/05/10 「望海楼」）より

日本投降，有上百万日本侨民流落中国各地。军国主义先愚民，后弃民，日本侨民处境艰难。但在中国，按日本一史志记载，“并没有发生由于战争结束对日本人进行民族报复的事情”，倒是“救济危难、庇护以安全、或主动给以生活上帮助的事情层出不穷”。中国人的善良打动了这些日本人，当年百万日本侨民的遣返地葫芦岛有一“恩”字石碑，说明了他们永志不忘的心情。这些侨民后来大多成为中日友好的积极推动者。

对战争的反思，对历史的态度，有一句名言：宽恕，但不忘记。一方面，在国家、民族乃至个人的关系史上，恩怨之事所在多有，如无宽恕之心，或会化为怨怨相报的“西西里式仇杀”，不知伊于胡底。另一方面，历史的事实和是非如不厘清，历史的教训如不记取，战争罪犯如不被绳之以法，不仅受害者心灵难以平复，加害者还会图谋东山再起，悲剧还会重演。

人们纪念60年前那场战争的结束，表达的是一种倍加珍惜和平的心情。但是，今天的世界上仍有战争，种种事实说明，60多年前的战争离我们并不远，导致战争和灾难的文化基因、利益驱动仍然存在。善良的人们，要警惕啊。

関連語彙

日本侨民	日本人の中国残留者
庇护以安全	安全のためにかばう 保護する
层出不穷	数限りなく次々と現れる
遣返地	(本国または原籍地へ) 送還する 引き揚げ地

	遣返戦俘 強制遣返
反思	反省する 再認識する
寛恕, 但不忘记	寛大に許す、しかし忘れない
恩怨之事, 所在多有	恩讐に関わることは山ほどある
冤冤相報	仇を討ちあう
伊于胡底	いつ終わりをつげることやら、どうなることやら（好ましくない現象についていうことが多い）
厘清	きまりをきっちりと整える
绳之以法	法を以って取り締まる
难以平复	おさまらない
图谋	謀る
东山再起	捲土重来
倍加	いっそう いやがうえにも
利益驱动	利権がらみの衝動？

参考訳例

日本の降伏により、百万を越える日本の中国残留者は中国の各地をさまよいました。軍国主義は先ず民を愚弄し、後に民を遺棄するのです。この残留者たちの境遇はまことにきびしいものがありました。しかし中国では、ある歴史書の記すところによると、「戦争の終結によって、日本人に対して民族的報復をするといった事件は決して起こらなかった」ばかりでなく、逆に「危険から救済し、安全のためにかばい、積極的に生活援助をしたなどの事例が、数限りなく起こった」というのです。中国人の善良さは日本人の心を打ち、当時多くの日本残留者の引き揚げ地であった葫蘆島には、「恩」の一字を刻んだ石碑があります。それには、当時の日本人たちの決してこの恩を忘れないという思いが込められています。この帰国者たちの多くは、後に中日友好の積極的な推進者となったのです。

戦争に対する反省、歴史に対する態度として、「寛恕する、だが忘れない」という名言があります。一方、国や民族、そして個人の間には恩讐に関わる事柄はあまりにも多く、もし寛恕の心がなければ、仇を討ちあう「シシリー島の虐殺」のようなことが起こり、いつ終わりを告げることかわかりません。又一方、歴史の事実と是非はもしそれをきっちりと評価しておかなければ、また歴史の教訓を汲み取らなければ、戦争犯罪に対して法を以ってこれを取り締まらなければ、被害者の心情はおさまらないばかりか、加害者が捲土重来を期すかもしれず、悲劇が繰り返されるかもしれません。

人々が60年前のあの戦争の終結を記念するに際し、平和を大切にしたい心情はいやがうえにも高まります。しかし、今日の世界には依然として戦争があり、様々な事実は60余年前の戦争は決して遠い過去のものではないこと、戦争と災難をもたらす文化的要因と利潤がらみの衝動は依然として存在していることをものがたっています。善良な人々よ、警戒

を怠らないようにしましょう。(筆者訳)

(B)「理性看待中日经贸合作」(人民日報海外版 2005/04/27「望海楼」)より

“见事贵在理明”。世界的繁荣需要中国，中国的发展也离不开世界。我国的外贸依存度已升至 70%，外贸及相关领域的从业人员逾 1 亿人，进出口税收占全部税收总额的 18%；外资企业工业产值占全国总产值的 1/3，外企税收占全国税收的 1/5，外企出口占全国出口的 57%以上，外企直接就业人数占全国城镇就业人口的 1/10 以上……这里面包含着中日经贸合作的贡献。实际上，在经济全球化背景下，各国生产要素相互交流、按价值规律进行配置，许多外国品牌是在他国以合资或合作的形式生产的，企业利益彼此交织，这已成为世界各国经济生活中的普遍现象。最近日本一些政客和右翼势力在历史问题、台湾问题上的错误态度和做法，激起中国民众强烈不满，以至有人提出“抵制日货”。但是，中日经贸合作已越来越相互依赖，抵制商品必将损害双方生产者和消费者的利益，不利于我们的对外合作与发展。在要求日方拿出诚意、正视历史的前提下，我们自己应立足双赢，服从大局，进一步巩固和深化中日经贸关系，维护好国家根本利益、核心利益。利益不是单方的，利益取决于合力，中日经贸合作也不例外。

関連語彙

见事贵在理明	事の判断に大切なことは道理にかなっているかどうか
相关领域	関連領域
经济全球化	経済のグローバル化
按价值规律进行配置	価値の法則により配置される
彼此交织	互いに入り混じる
以至...	...までに至っている
抵制日货	日本商品のボイコット
立足	立脚する
双赢	Win-Win 両者勝ち
服从大局	大局に従う
利益不是单方的	利益は一方だけのものではない
利益取决于合力	利益は協力することにかかっている

参考訳例

「事の判断に大切なのは道理にかなっているかどうかである。」世界の繁栄に中国は必用であり、中国の発展も世界から切り離しては考えられません。わが国の貿易依存度は 70% に達し、貿易関連領域の従業者は 1 億人を超し、輸出入税収は税収総額の 18% を占めています。外資企業の工業生産高は全国総生産高の 1/3 を占め、外資企業からの税収は全国税

収の 1/5 を占め、外資企業の輸出は全国輸出の 57%以上を占めています。外資企業での直接就業者数は全国都市就業者数の 1/10 以上を占める...など、これには中日経済貿易の合作が寄与しています。事実、経済のグローバル化のもとに、各国の生産要素は互いに交流し、価値法則の下で配置され、多くの外国ブランドは、他国において合併や合作の形式で生産されており、企業利益は互いに入り混じり、これが世界各国の経済生活の普遍的現象となっています。最近日本の一部政治家や右翼勢力が歴史や台湾問題で見せた誤った態度ややり方は、中国の民衆の強烈な不満を引き起こし、「日本商品ボイコット」を言い出す者まで現れました。しかし中日経済貿易の協力関係は、互いの依存度をますます高めており、商品のボイコットは必ずや双方の生産者と消費者の利益を損ない、われわれの対外協力と発展には不利です。日本側に誠意をもって歴史に正視することを求めてゆくことを前提に、私たちは双方勝ちの関係に立脚し、大局に従い、中日経済貿易関係を更に強化し、国の根本利益と、核心の利益を守らなければなりません。利益は一方だけのものではなく、協力することにかかっています。中日経済貿易の協力も例外ではありません。(筆者訳)

以上

『ビジネス現場の中国語』—— 制作裏話 ——

会員： 北原 恵

あれは、中国での研究員身分の駐在が終わって帰国した二年前のことでした。帰国後に非常勤講師として依頼されていた大学の経済学部で「ビジネス中国語」の講座を担当することになり、人生で初めて正式に教壇に立って緊張した、あの時の初々しさを今でもハッキリ覚えています。しかし、非常勤先大学の第二外国語履修生のレベルは「ビジネス中国語」という看板を掲げ



た講座と実情は大きく異なり、学生の中国語のレベルは新聞記事を読むにもちょっと難しいレベルでした。市販の本を見ても、一般に基礎中国語の本は多いけれど、ビジネス中国語の本になると種類も限られ、授業で使えるような教材本は一気にレベルが高くなります。ゆえに、私の方で予め準備していた市販の教材本は、残念ながら非常勤先大学の授業では全く使えないまま、今も自宅の書棚で眠っています。

このような現状と問題点について把握した後、私は勤務先大学に報告しましたところ、「それなら、非常勤の語学教員の立場で教材開発して下さい」と非常勤先大学の学生のレベルにあったオリジナル教材を開発するよう命じられたのが、本教材を制作するきっかけとなったのです。さらに、大学からは、

「学生の就職活動や将来の海外インターンシップのプロジェクトに役立つような本にして頂きたい。語学だけでなく、同時に中国事情（社会・経済関係）も学べるようにして欲しい」との追加要望もありました。

急な教材開発依頼でしたので、実は、大学側には当初必ず予算をつけられるという保証がありませんでした。おまけに私は非常勤講師でしたので、教授会に出席できず、内部の財務関係者と話し合う機会もありませんでしたので、作業を進める上で最も大切な予算のことは自分では決められず、大学に報告だけして、正式な回答が出ないまま、とにかく早く新学期までに作成しなければ、と作業を進めざるを得ませんでした。どれだけの月日がかかって、資金がどれぐらいかかり、どういう手続きをして初めて印刷できそうか、また作業上どのような人に協力を要請しないといけないか・・・など、私にとっても初めての本格的な教材本の制作で、もちろん思い悩むことは多々ありました。一番、きつかったの

は、学校側からも印刷会社や出版社を紹介されず、無名の一介の非常勤講師として、何の「ツテ」も無いところからインターネットで自分で業者を検索し、出版社や印刷会社に直接、見積をお願いして交渉せざるを得なかったことです。

ある中国関係の専門の出版社に問い合わせると、

「印刷部数も少なく、一つの大学だけで使うオリジナル教材なら一般の読者には売れそうにないし、利益が見込めず儲からない。書店に下ろすと管理費も高くつくでしょう・・・」と尤もらしい理由で体よく断られ、ついでに出版社から口頭で紹介された見積りもびっくりするぐらい高かったのを覚えています。それは、大学から予算が下りなかった場合、とても私の貯金で対応できる金額ではありませんでした。最初は本当にいろいろ難航し、まさに「好事多磨」を痛感しました。当時は原稿が最終的に、本当に「形（作品）」になるなど、想像だにできなかったほどです。でも、一緒に執筆を計画した著者の先生方の中国ビジネスに対する熱い思いを考えると、途中で諦められませんでした。とにかく最後まで粘って印刷してくれる業者を見つけ、最終的に一冊の本に仕上げるのが私に課された使命であると感じ、日々作業を続けました。もちろん、私は非常勤講師なので「教材開発は教員の仕事である」との大学側の主張により、原稿料は一切認められませんでした。

そこで、私のような無名の著者は出版社に掛け合うのは予算も足りないことだし諦めた方がいいと割り切り、次に試しに中国関係で老舗の印刷会社にコンタクトを取ってみました。偶然だったのですが、この印刷会社は中国語の教材市場において、約7～8割のシェアを占め、大手出版会社からも多くの依頼を受けて中国語の印刷を行っておられる会社でした。私が郵送した原稿に対する反応や連絡も迅速で、すぐに「うちでよければ、印刷させていただきますよ。書店に置いても恥ずかしくない程度の印刷に仕上げられます」との返事を頂きました。出版社に相手にされなかった後でしたので、私は天にも昇る小躍りする気持ちでこの言葉を頂き、「よし、この会社に任せよう！」と思った次第です。ご担当者の対応は懇切丁寧で、素人の私にも親切に説明して下さり、手順よく印刷作業を進めて下さいました。そして、何といっても見積価格がとても良心的でした。それは、大学の予算が付かなかった場合、最悪は私の貯金でも何とかできる範囲内の呈示額でした。しかし、印刷会社には書店とのパイプで販路を管理する業務内容は含まれておりません。ゆえに、単に学内の学生及び大学の関連会社で中国に進出している企業向けに大学の宣伝として贈呈する為に、ビジネス中国語の教材を体裁よく印刷してもらうだけの依頼となり、よってこの教材本は書店には並ばない「内輪の書籍」となりました。

このような約二年間にわたる教材開発は（一年目はサンプル教材を作成し、自分で大量コピーをかけて学生に無料配布しました。二年目はその原稿を基に、レベル調整や細かな校正作業並びに経済データを更新したりしました）、私自身がまだ大学院に所属していたこともあり、博士論文や学会発表と同時進行、或いは合間を縫っての執筆、編集作業でしたので、深夜まで及ぶことはもちろん、原稿の締切前は朝方まで徹夜になることもしばしばでした。初級の中国語教材を制作するにあたり、最も苦心したのは、細かなピンイン入力

でした。そして、私からは正しい原稿を提出しても、印刷業者からあがってくる原稿には、中国語ソフトの互換性の問題などもあり、思わぬ箇所に文字化けやピンイン声調の違いなどが生じ、度重なる校正作業もそれなりに大変でした。とにかく、中国語・日本語の混在部分とピンインの印字と声調の問題、軽声の見落としなど、これは日本語以上によく問題が起こり、校正者泣かせの一面でした。

こうして遂に完成した一つの「作品」であり著者の現場体験に基づく本教材は、各大学の第二外国語履修生や、将来、中国語を使った仕事を目指したい学生、対中進出が目覚しい各企業で中国担当になった素人ビジネスマンの方などを対象に執筆したものです。会社の舞台は、架空の「ホームフード株式会社（中国名：和睦福多食品公司）」です。この社内で起こるビジネスに関するドタバタ劇の一面を、新米ビジネスマンの部下と上海支社駐在の総経理のやり取りを通じて、現場の臨場感を持たせて描いています。ビジネスマナーや中国で働くイメージを掴んでもらうような内容にしようと工夫しました。

本教材が、これから中国語を使って中国とのビジネスの現場に飛び込んで活躍される方々に、少しでもお役立て頂ける部分があると幸甚です。



(写真1) マレーシアから国境を越えて
シンガポールへ出稼ぎに行く華人たち



(写真2) 中国に進出する日系企業
—— 生産ラインの現場 ——

ビジネス中国語学会

報告者: 北原 恵

— 『ビジネス現場の中国語』 —

- ① 第二外国語履修生と一般ビジネスマンを対象にした教材内容の紹介
- ② 制作 裏話、苦労話
- ③ 中国と日本で献本した評価
- ④ 著者 紹介 (野中靖介 先生)



1



2

制作の趣旨

就職活動準備中の
中国語履修生

対中ビジネスの
素人ビジネスマン

ビジネス中国語の学習

初歩的な対中ビジネス
マナーの習得

中国の社会・経済
事情の習得

3

＜社内での役割・ポスト＞

クラス	ポスト・役職名	中国語	発音
経営者クラス	取締役会長	董事長	dǒngshìzhǎng
	社長	總經理	zǒng jīnglǐ
	副社長	副總經理	fù zǒngjīnglǐ
	専務	專務	zhuānwù
	常務	常務	chángwù
管理職クラス	経理	經理	jīnglǐ
	(文書課)	(文書課)	(wénshū kù)
	(支店長)	(分店 店長)	(fēndiàn diànzǎng)
	(支店長)	(分店 店長)	(fēndiàn diànzǎng)
	(工場長)	(工場 工場長)	(gōngchǎng zhǎng)
	次長	副經理	fùjīnglǐ
	課長	科長	kēzhǎng
一般スタッフ	部長	主任	zhǔrèn
	秘書室秘書	秘書科 (処)	mishūshì(mishū)
	総務課 (課)	行政管理局 (処)	xíngzhèngbùjú(xíngzhèng)
	人事部 (課)	人事科 (処)	rénshìkē(chù)
	経理課 (課)	財務科 (処)	cáiwùkē(chù)
	開発課 (課)	開発科 (処)	kāifānkē(chù)
	営業課 (課)	營銷科 (処)	yíngxiāokē(chù)

注) 日本と中国の会社組織の違いにより、完全に一致する訳職表・ポストがない場合、最も類似する訳語を表記した。

4

＜企業の種類＞

企業の種類	中国語	内容解説
＜国営企業＞	國有企業(guóyǒuqǐyè)	企業の全資産が国の所有に属する企業。鋼鉄・自動車・石油・化学工業など巨大企業は全て国営企業。
＜集団企業＞	集團企業(jítuánqǐyè)	企業の資産が公共集団所有に属する企業。都市部では区・街道など、農村部では県・郷・鎮・村などが経営する企業を指す。
＜私営企業＞	私營企業(sīyíngqǐyè)	企業の資産が個人所有で、従業員が8人以上の企業。
＜個人企業＞	个体戶(gètǐhù)	企業の資産が個人所有で、従業員が8人以下の企業。
＜株式会社＞	股份有限公司(gōngshìyǒuxiǎnqǐyè)	企業の資産が株主所有で、株主管理を法は外国の株式会社と同じ。中国では、国営企業、集団企業、私営企業などが株式形式で、株式市場に上場する企業も増えている。
＜外資企業＞	外資企業(wàiziqǐyè)	数国や外国企業の所有による企業で、以下、3種類の「三資企業」に分かれる。 ①「合資企業」：中国と外国の企業の両方が共同経営する株式会社。経営権は出資率によって決まる。 ②「合作企業」：契約規定の投資・合作条件で共同経営する企業。定てが事前の契約に基づく。 ③「投資企業」：100%全て外国企業・外国人投資家の資金による企業。
④中外合資企業 ⑤中外合作企業 ⑥外商投資企業	合資企業(héqāiqǐyè) 合作企業(hézuòqǐyè) 外商投資企業(wàiwāngtóuziqǐyè)	

5

★ 内容紹介 ★

＜登場人物紹介＞

主人公：田中幸平 西暦中国人：李月琴 会社上司：高野社長



中国語を勉強して上海で動物の飼育員として働く。中国語が上手で、動物の飼育員として働く。中国語が上手で、動物の飼育員として働く。

中国語の勉強の中国語の勉強。中国語の勉強の中国語の勉強。中国語の勉強の中国語の勉強。

中国語の勉強の中国語の勉強。中国語の勉強の中国語の勉強。中国語の勉強の中国語の勉強。

6

第1課

机场迎送

Jīchǎng yíngsòng
空港送迎



田中：小李，今天从日本来的客人几点到机场？
李月峰：预定下午四点到达。
田中：谢谢！我晚上吃饭的话，就来机场接机了。
田中：机场离市内挺远，路上至少要一个小时。
李月峰：是啊，田中，今天的客人是从这家公司来的。
田中：这家公司，拜托了。
李月峰：好的，再见。

豆知識

中国と日本の会社で異なる上下関係と社内秩序

日本の会社と中国の会社では、企業文化が全く異なる。日本では社内のボストや入社年資、年齢によって「上下関係」における厳格な階級が存在し、年功序列や年功序列の秩序がその最も顕著な特徴である。しかし、中国では、そのような上下関係は、日本の社内文化においては稀である。従来には親睦的な関係として、日本と比べると「互恵関係」で付き合えることも多い。これは、日本の会社のようなカレンスや階級というよりは、身近な上司の存在である。
中国人社会では、「フライング」(飛越)の精神に力をつけることがあるといわれるが、それは、中国では、人と人の距離感が近く、人際(人間関係)に基いた社会であるといえるのではない。
その意味では、ボストや年齢が下の者が上の者を呼ぶ時は、「哥(兄)」「弟(弟)」(兄弟)の呼び方をしている。上の者が下の者を呼ぶ時は「哥(兄)」「弟(弟)」のようには呼ばない。



経済都市 上海

・ 上海での生活と駐在(体験談含む)

広東省の「食は広州にあり」

元駐在員の中国雑感

神戸学院大学 客員教授

野中 靖介

ビジネス中国語学会の皆様、このたび入会させて頂きました野中靖介です。

今後とも宜しくお願いいたします。平成15年3月電通を定年退職して4月より神戸学院大学で中国語会話と外書講読を教えています。

私は吉林省長春の生まれで昭和21年に日本に引揚げてきました。生まれた時から中国と縁があったと思います。中国語との出会いは大学の第2外国語に中国語を選んだからです。その後電通に入社13年間は中国とは全く関係のない部署にいましたが、対中ビジネスの拡大により電通も中国に拠点を作る必要が出てきました。この時、社の拠点作りとその運営の一助になりたいと自ら手を挙げました。以来24年間中国ビジネスに携わってきました。80～91年の11年半と98年～2001年の3年半は上海に駐在し合弁の広告会社をきりもりしてきました。

「お客様は神様です」この言葉は、スポンサーをかかえる広告屋の心情をよく表わしています。しかしこの中国ではお客様は神様だけでなく私は「皇帝」と呼んでいる中国のメディア特にテレビは超売り手市場で、我々にとっては手ごわい相手なんです。その上に中国のローカルスポンサー「大魔神」がいて、扱いが取れてもすんなりとは払ってくれません。社業を伸ばすため、この神様・皇帝・それに大魔神とのコミュニケーション作りを最重点にしました。この関係がうまくいかないと、実務は前進しないと思ったからです。

お陰で呑みニケーションの回数もふえました。中国のテレビや新聞に広告をオンエアーしたり掲載する時、売り手市場ゆえ殆どが前払いが条件です。それとは反対にスポンサーからの入金、オンエアー後であり掲載後であるので、この前払いの資金を常に調達出来るように準備しておく必要があります。

私はこの広告料金の早期回収と、メディアへの支払いを少しでも遅らすための諸策を練り、実行することによりかなりの力をつぎ込みました。皆様もよくご存知ですが、今中国はあくまでも資本主義経済のシステムを取り入れ、自国の豊かさを求めながら、社会主義的資本主義の道を右肩あがりで行っています。

中国の広告産業は経済発展と歩調を合わせる様に毎年2ケタ台の高成長を維持しています。アジアで日本に次ぐ巨大な市場として顕在化しつつあり、新しい成長業種の一つです。

媒体系、民族系に加え海外の広告会社の市場参入が相次いでいます。それに対してスポンサーは広告会社に日本並みのクオリティと中国並みの安い料金を求めています。「扱い獲得」のため激しい競争にいかにか打ち勝っていくか」が広告会社にとって大きな課題です。

日本ビジネス中国語学会

設立趣意書

明治以来終戦時に至るまでの間、わが国の外国語教育は、先進文化を吸収するための文化語学と、近隣諸国との軍事・通商に備えるための実用語学にはっきりと分かれていました。従って文化語学はアカデミックな研究であり、実用語学は技術的訓練にしかすぎないと見られてきました。そういう潮流の中で、中国語学界のエリートたちは、中国語学を文化語学としてアカデミックな研究の対象にしようと、第2次大戦末期に力説されるようになりました。

第2次大戦後は、曲がりなりにも中国語学はアカデミズムの片隅にその位置を見つけ、大学の教員もアカデミックな研究によって自分の業績を作るようになりました。しかし、一方で実用語学としての中国語学は軽視されるに到りました。外国語大学や社会科学系学部でも、商業経済や新聞雑誌に関する中国語研究は次第におろそかになり、そのため、この方面の研究に従事する人々は、共同に研究する基盤もなく業績を発表する媒体もないという有様であります。

言うまでもなく、日本のおかれている国際的地位は明治・大正と大いに異り、外国文化に関する見方も先進・落後という単純な区別はなくなり、わが国と中国との関係もまた文化から経済まで広くかつ深いものになっています。中国語の言語理論的研究はもちろんより一層発展させる必要があります。同時に中国語の実用的研究はそれ以上必要であると思われまます。

近畿在住の数人の研究者が時折顔を会わせて論議しているうちに、全国各地に散在しているそしてまた学界のみならず経済界で活躍しているこの方面の研究者を結集して、中国語の実用的研究——例えばビジネス中国語・通訳翻訳の研究等々を組織的、体系的に推進するために、ここに「日本ビジネス中国語学会」をつくろう、という議が持ちあがりました。

趣旨に賛同下さる方々のご参加を心から期待しています。

日本ビジネス中国語学会会則

第1条 (名 称)

本会は日本ビジネス中国語学会と称する。

第2条 (事務所)

本会は事務所を大阪市内に置く。

第3条 (目 的)

本会はビジネス中国語に関する研究及び関係諸団体との交流を通じて、我が国における中国語学習者の語学能力の向上を図り、もって日本と中国の友好交流の発展に寄与することを目的とする。

第4条 (事 業)

本会は前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

会長は必要に応じて事業推進グループを設置することができる。

1. ビジネス中国語、翻訳・通訳に関する研究。
2. 日中間の相互理解を深める為の教育・研修事業。
3. セミナー、講演会の開催。
4. 機関紙の発行。
5. ビジネス中国語検定。
6. その他前各号に関連する事業。

第5条 (会 員)

本会の会員は次の通りとする。

個人会員 本会の目的に賛同して入会した個人。

法人会員 本会の目的に賛同して入会した法人。

第6条 (入 会)

本会の会員になろうとする者は、別に定める入会申込書を提出し、承認を得なければならない。

第7条 (退 会)

①本会を退会しようとする時は、理由を付した退会届けを提出しなければならない。

②会員は次の各号の一に該当するときは、退会したものとみなす。

1. 会費を2年以上滞納したとき。
2. 死亡したとき。
3. 会員たる法人が解散したとき。

第8条 (除 名)

会員が本会の名誉を傷つけ、又はこの会則に違反したときは、総会の決議により、除名することができる。

第9条 (役 員)

①本会に次の役員を置く。

会長 1名 理事長 1名 理事 10名以上15名以内 会計監事 2名

②理事及び会計監事は、会員の中から総会において選任する。

③会長及び理事長は、理事の互選とする。

④法人会員の代表は役員の被選任資格を有する。

第10条 (役員の職務)

①会長は、本会を代表し、会務を統括する。

②理事長は、会長を補佐し、会務を処理する。会長に事故あるときは、その職務を代行する。

③理事は、理事会を組織し、会務を執行する。

④会計監事は、経理を監査する。

第11条 (役員の任期)

①役員の任期は、2年とする。但し再任を妨げない。

②補欠により就任した役員の任期は、前任者の残存期間とする。

第12条 (役員の報酬)

①役員は、原則として、無給とする。但し、常任の役員は、有給とすることができる。

②常勤の役員の報酬は、理事会の決議により定める。

第13条 (顧 問)

①本会に顧問、相談役若干名を置くことができる。

②顧問、相談役等は理事会の議決を得てこれを委嘱する。

第14条 (総 会)

①総会は、定時総会及び臨時総会とする。

②総会は会員をもって構成し、この会則に規定するもののほか、次の事項を決議する。

1. 事業計画及び収支予算。
2. 事業報告及び収支決算。
3. その他本会の運営に関する重要事項。

第15条 (総会の召集)

①総会は会長が召集する。

②総会を召集するには、会議の議題並びに日時・場所を開催日の10日以前に通知しなければならない。

第16条（総会の開催）

- ①定時総会は、毎年1回会計年度終了後3ヶ月以内に開催する。
- ②臨時総会は、理事会が必要と認めたとき、又は会員の5分の1以上の請求があったときに開催する。
- ③総会の議長は、会長がこれにあたる。

第17条（総会の議事）

- ①会員はそれぞれの一個の議決権を有する。
- ②会員は他の会員に代理出席を委任することができる。
- ③総会の決議は、出席会員の過半数をもって行う。

第18条（理事会）

理事会は、理事をもって構成し、この会則に定められるべきもののほか、次の事項を処理する。

1. 総会における決議事項の執行。
2. 総会に付議すべき事項。
3. 資産の管理。

第19条（理事会の召集）

- ①理事会は年1回以上開催し、会長が召集する。
- ②議長は会長がこれに当たる。

第20条（理事会の決議）

- ①理事会の決議は出席理事の過半数をもって行う。
- ②理事は他の理事に代理出席を委任することができる。

第21条（資金）

本会は下記の資金により運営する。

1. 会費並びに寄付金。
2. 事業収入及びその他の収入。

第22条（会計年度）

本会の会計年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

第23条（事務局）

- ①本会の事務を処理するために、事務局を置く。
- ②事務局は、理事長が統括する。
- ③事務局に常勤する職員は有給とすることができる。

第24条（会則の変更）

会則の変更は会員の3分の2以上の承認を要するものとする。

- 付則
1. 本会は1990年12月8日から発足する。
 2. 本会の最初の役員は設立発起人がこれにあたる。
 3. 2002年6月29日、一部改訂

役員名簿

（2006年の総会まで）

会長	藤 本 恒	京都文教大学
理事長	榎 原 茂 樹	大阪外国語大学
		神戸市外国語大学
会計監事	待 場 裕 子	流通科学大学
理 事	伊 井 健一郎	姫路獨協大学
理 事	神 崎 多實子	NHK BS・通訳
理 事	上 林 紀 子	京都外国語大学
理 事	輿 水 優	日本大学
理 事	武 吉 次 朗	前摂南大学
理 事	塚 本 慶 一	神田外国語大学
理 事	戸 毛 敏 美	関西外国語大学
理 事	橋 本 南都子	獨協大学
事務局長	岩 下 孝 彦	大阪中国語学院

日本ビジネス中国語学会 入会のご案内

趣旨に賛同される方は、どなたでも入会できます。

入会ご希望の方は、申込用紙に会費を添えて事務局までお申込下さい。

(設立趣旨・46頁、会則・47、48頁をご参照下さい。)

入会費	1,000円 (個人)	年会費	3,000円 (個人)
			(家族会員は1,000円)
	10,000円 (法人)		20,000円 (法人)

会費納入先 郵便為替 00950-9-4857 日本ビジネス中国語学会

連絡先 〒530-0041 大阪市北区天神橋2-北2-26 マルサンビル4F

日中語学センター気付 日本ビジネス中国語学会

電話 06-6353-2442 FAX 06-6353-0664

----- キリトリセン -----

入会申込書

日本ビジネス中国語学会
会長 藤本 恒 殿

貴会に入会致します。

年 月 日

ふりがな 氏 名		女 男	生年 月日	年 月 日
ふりがな 住 所	〒			
電 話	—			
所 属				

会報 第15号 2005年8月31日 発行

日本ビジネス中国語学会

〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目北2番26号 マルサンビル4F
日中語学センター気付
電話 06-6353-2442 FAX 06-6353-0664